





## 「住む」より「楽しむ」BESSの家

自然の木をふんだんに使った BESS (ベス) の家。

とても個性豊かな家たちです。

BESS がめざすのは、その家の先にある楽しい暮らし。

手をかけながら、毎日を愛おしむ。

家族がおおらかに笑いあう。

そんな暮らし、感じに来ませんか？

個性豊かな木の家がいろいろ。楽しい暮らしを体験できる場。

ログウェイ  
**LOGWAY**  
**BESS** 博多

福岡空港から車で6分

〒812-0863 福岡市博多区金の隈1-39-7  
TEL.092-583-3700 (代)

営業時間 10:00-18:00  
定休日 火曜・水曜・木曜 (祝日は営業)

交通 最寄駅・JR南福岡から約4km  
西鉄雑餉隈から約3.5km

ログウェイ  
**LOGWAY**  
**BESS** 北九州

国道三号線遠賀バイパス沿い

〒811-4331 遠賀郡遠賀町別府3713-3  
TEL.093-291-1700 (代)

営業時間 10:00-18:00  
定休日 火曜・水曜・木曜 (祝日は営業)

交通 最寄駅・JR遠賀川駅から約2km



感染症予防対策のため見学・お打ち合わせは予約をお願いしております。電話にてご連絡ください。

心ひとつに！

「雲のうえからこんにちは」に寄せて

いつもご愛読いただきましてありがとうございます。  
 皆さま、

また、編集委員をはじめ関係の皆さまには、  
 発刊にご尽力いただき感謝します。

ユニークな目線で私たちの街・北九州市を  
 切り取っている『雲のうえ』が、今回は「読  
 者ががき」にスポットを当てるとのことで、  
 全国各地から寄せられたはがきを読ませてい  
 ただきました。

笑いあり、涙あり、叱咤ありとバラエティ  
 に富んだおたよりの数々には、皆さまの北九



州市への温かい愛情を感じることができ、誇  
 りに思います。

そして『雲のうえ』には、今後もさらに北  
 九州市の文化や人情、風景などの隠れた魅力  
 にスポットライトを当てていただき、50号、  
 100号へと飛躍することを祈念いたします。  
 社会はいま、コロナ禍で日々の社会経済活  
 動は大きな制約を受けています。この特集に  
 よって読者の皆さまが元気を取り戻し、平穩  
 な日々を過ごせるよう心から願っております。

北九州市長 北橋健治

『雲のうえ』33号の発刊にあたり

緊急事態宣言、移動自粛要請など新型コロ  
 ナウイルス感染防止対策が講じられる状況に  
 おいても、『雲のうえ』を発刊できたことを  
 たいへんうれしく思います。

これもひとえに、発刊を熱望された読者の  
 皆さまの温かい応援と関係者のご協力による  
 のと感謝いたします。

今回は、満足な取材ができない状況である  
 ことから、過去に取り上げました人・風景・



座長  
利島康司

物などを、読者目線で振り返ってみました。  
 綴じ込みはがきでのおたよりは、私ども懇  
 話会には励みになり、また街の魅力再発見と  
 なります。これからも皆さまと一緒に添える  
 よう尽力いたします。  
 最後になりますが、新型コロナ感染症の一  
 日も早い終息と皆さまのご健康を心から願っ  
 ております。

北九州市にぎわいづくり懇話会

目次  
 1 巻頭メッセージ  
 文 北九州市長 北橋健治  
 北九州市にぎわいづくり懇話会  
 2 特集  
 皆さまからの「おたより」で綴る  
 「雲のうえから  
 こんにちは」  
 絵 牧野伊三夫 構成・文 大谷道子

14 ああ、懐かしの  
 北九州 あの店・あの人・あの場所  
 『雲のうえ』読者の大意識調査  
 北九州つてどんな街？  
 絵 牧野伊三夫

34 復活！ 街のうた  
 街で、ひとり  
 私と北九州  
 人に物語あり、はがきに人生あり

47 15年？ いやいや、100年続けよう  
 『雲のうえ』にお願い！

53 特別付録ポスター  
 北九州市民憲章(と、おまけまんが) 絵 牧野伊三夫

『雲のうえ』33号  
 絵・題字 牧野伊三夫 アートディレクション 有山達也  
 編集 大谷道子 校正 齋藤晋 編集協力 成合明子  
 © 北九州市 2021  
 本誌記事・写真・イラストレーションの無断転載を禁じます。

皆さまからの おたよりで綴る

絵 牧野伊三夫  
構成・文 大谷道子

「雲のうえから」

「こんにちは」

いきなりですが、  
岩手県盛岡市在住・56歳女性からのおたよりをご紹介します。  
タイトルは「忘れていました」。

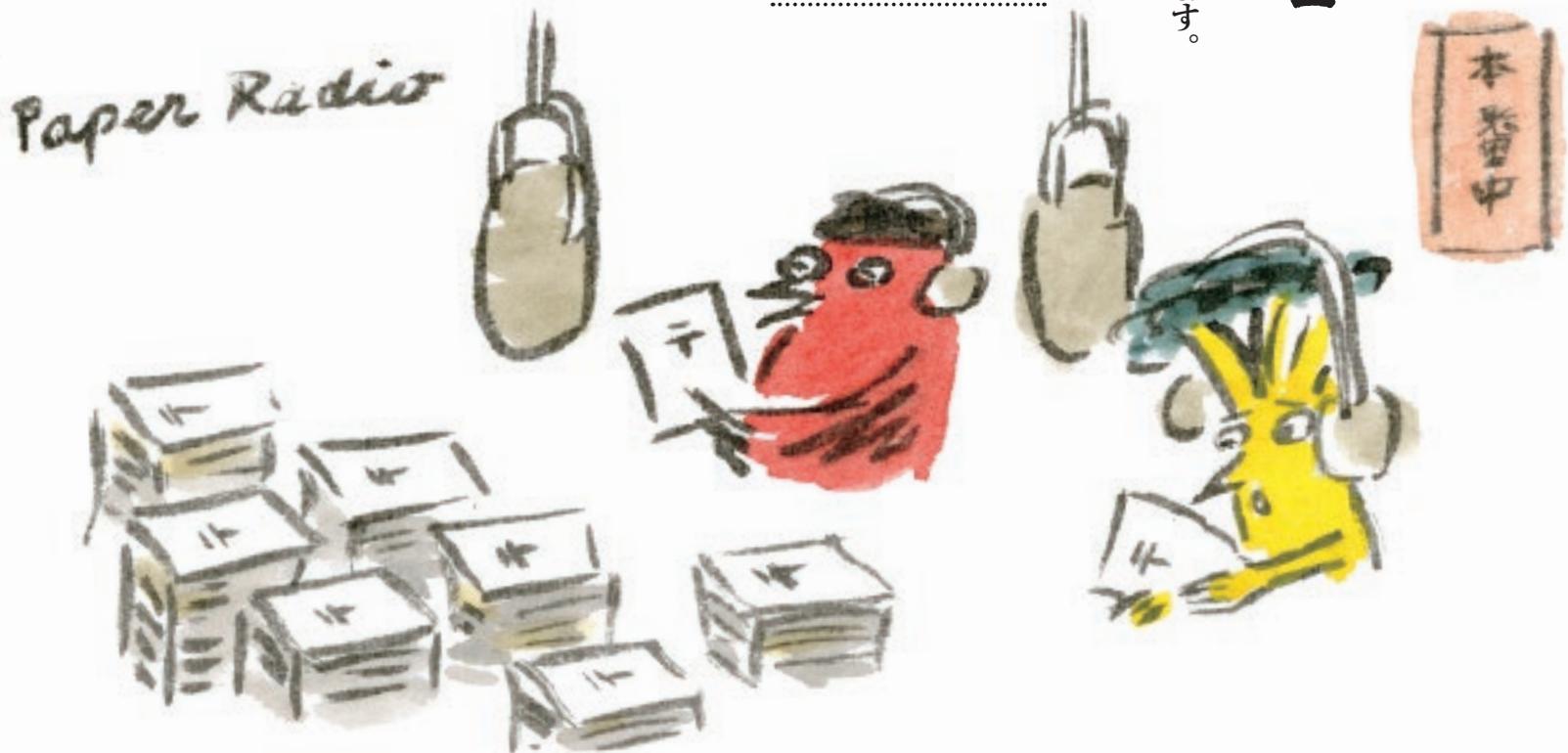
「コロナ騒ぎで、北九州の皆さんも大変だと思えます。  
私もすっかり『雲のうえ』のことを忘れていました。  
困った状況が続く中であっても、  
『雲のうえ』をなんとか続けてほしいと願っています」

思い出してくださいって、ありがとうございます。

北九州市にお住まいの皆さま、  
遠く離れた街にお住まいの皆さま、お元気ですか？  
いつも『雲のうえ』を手にとってくださる方、  
遠くから心を寄せてくださる方、  
お顔は見えなくても、その気持ちは、ほら、  
ちゃんとこうして届いております。

2006年の創刊からはや15年、北九州市からお届けしてきた  
『雲のうえ』、今回は特別にリモートラジオ放送局を開局！  
……といっても、電波ではなく、あくまで誌上でのことですが。  
これまで皆さまからいただいた、たくさんのおたよりを  
蔵出しで紹介する、1号限りの特別号を作りました。

こんなときだからこそ、愛すべきこの街のこと、  
そこに集った人の声に、耳を澄ませようじゃありませんか。  
そうして、思い浮かべようじゃありませんか。  
またいつか、この街で、皆が笑顔で会う日のことを。  
「雲のうえからこんにちは」、それでは、スタートします！



● 本特集は、2011年11月発行の『雲のうえ』15号から2020年2月発行の同32号にお寄せいただいた読者の皆さまからのおたよりで構成しております。各文に添えた住所（市区町村名）・年齢はすべて当時のものです。  
● 掲載にあたり、文章の趣旨を変えずに一部手直しを入れております。また、誌面の都合上、全文でなく部分を掲載させていただいているおたよりもあります。

まずは2020年2月発行の32号、「すし並一人前から眺める北九州。」へのおたよりを、ご紹介します



はじめて『雲のうえ』を手にして、最初のページから最後のページまでを讀みました。特集は新しい切り口で北九州の魅力を引き出した、すばらしい企画だと感動しました。40年前、折尾に2年、戸畑に3年住んでいましたが、北九州はいつも気にかかる街。今度行ったらすし屋で「すし並」を食べることにします。

(福岡県久留米市・72歳男性)

勤めているホテルの中で見つけて、はじめて讀みました。紹介しているのは、数あるすし店の中でも高すぎでなかなか行けない店ではなく、安心な価

格で味もよく人もよく、ひとりでも行けそうなお店ばかり。北九州の味のよさをあらためて知りました。

(八幡東区・72歳女性)

おふたりとも33号目での「はじめまして」うれしいです!



「すし並」特集、非常によかった。すしは築地、仙台、小樽と思っていたが、どの店のも写真がきれいで、文章もまたよし。2、3日ホテルに泊まっ

(東京都杉並区・82歳男性)

て、毎日2食はすしを堪能したくなった。年金生活者の老生にも十分ペイできる値段。東京からもっと近ければ、申し分ないのだが。

なア」などと思っていました。でもでも、すごい会社だったのですね!! 近くに住む私にとって自慢のひとつになりました。

(八幡西区・70歳女性)

すし特集の1軒に、かつての教え子の姿を発見。氏名も載っていたので見入ってしまった。彼は桜吹雪を「雪だ」と言い張り、実際に見に行き、桜の花びらと理解した子。あれから30年、桜吹雪の季節になると思い出していたが、大人になった顔は知らずじまい。元気でなにより。

(若松区・65歳女性)

カウンターでの再会、叶うといいですね

コロナウイルスで北九州の実家に帰れず、寂しくなり、『雲のうえ』を送してもらいました。いつも食べている「千両」のおすしが載っていて、泣きそうです。心置きなく帰ることがで

きる日を心待ちにしています。

(広島県三次市・34歳女性)

おいしいものを食べるのが好きだ。北九州には、本当においしい店が多いと感じる。気取らず、飾らず、それでいて味は抜群、それが身上だと思っている。ところで、この手紙を書いているいま、北九州市も新型コロナウイルスの猛威の最中にある。疫病で人の心や経済が冷え込むと、先のような店がまっさきに危険にさらされる。入院先の病院でこのはがきを書いている私だが、退院したらそうした店の手助けができればと思う。

(八幡東区・53歳男性)



大変な中、おたよりありがとうございます。いつかお店でお会いしましょう! 続いて、31号から26号の各号にいただいたおたよりを紹介します

●31号「北九州スポーツ探訪」

(2019年11月発行)

運動が苦手で、あまりスポーツに興味を持っていませんでしたが、表紙の少女たちのキラキラした表情にまぎグツときてページをめくり、それぞれのスポーツをしている人々の写真と文を讀んで、自分の学生時代の記憶も重なったりして涙流さずにおれませんでした。熱い……。「よっしゃ、私も頑張るぞー」と思いました。

(小倉南区・37歳女性)

どうせだめだ、失敗する……いつも石橋を叩きすぎて新しいことにチャレンジしないまま、老人になってしまいました。が、この号を讀んで、打算なく純粹にスポーツに取り組む若者によく刺激をいただきました。読後、怖かったですが魚の三枚おろしに初チャレンジしました。若者よ、勇気をありがとう。

(山口県下関市・76歳男性)

●30号「北九州やきとり豚バラ日記」

(2019年2月発行)

北九州市のソウルフードであるやきとりを取り上げていただき、うれしかったです。とくに「焼鳥 かさ岡」焼鳥 いしやん」は、私も何度も行った大好きなお店。かさ岡の手羽先といしやんのたたきは最高です。きっと市外のお客さまにも喜んでいただけていると思います。

(小倉南区・47歳男性)

やきとりの特集、香ばしい香りが漂ってきそうで、いますぐ食べたくなりました。紹介されていたお店は行ったことがないお店ばかりで、興味津々。私のように女ひとりで飲みに行く者は、お店の大将、女将さん、常連さんの顔が見えると、安心して行けるのでありがたいです。価格帯が書かれているのも安心。ぜひ計画してみます。

(福岡県荳田町・54歳女性)

●29号「北九州、市民の水。」  
(2018年11月発行)

生活には欠かせない「水」についての記事、読みふけてしまいました。まず、紫川の名の由来がいくつもあることに驚きました。万葉集にも詠まれた切ない恋物語まであるなんて、素敵。北九州全体を5つの施設で水をまかっていること、わざわざヤマメの養殖をしていることなどまったく知らず、北九州出身の家族や小倉の友人にも話しましたが、誰ひとり知りませんでした。

(千葉市・29歳女性)

朝起きて、蛇口をひねって水が出なかったら？ そのことを想像し、暮らしのすべて、その中心にあるのが水だということに気づかされました。大雨や地震などの天災が起これ、当たり前が当たり前でなくなつた

力は、地味ながらもどうでもいいことにあると、個人的には思っています。

(福岡市・60歳男性)

●27号「幸福の黄色いカレー」  
(2017年11月発行)

北九州のカレー特集! 市民の私でさえ「どうせ門司港の焼きカレー特集だろう」と思い、ページをめくつた。誤解していました。市内にこんなにもたくさんのカレー関連のお店があるとは。しかも、写真を羅列し料理の説明のみのグルメ本と違い、店主のサイドストーリーがいい。これからもグルメ「読」本流で、名店を紹介してください。

(八幡東区・53歳男性)

《北九州のカレーはライスじゃなくて、ライフ》とありましたが、『雲のうえ』はまさにいろんな視点から北九州人のライフを紹介してくれる雑誌。ごく普通の人が輝いて、それに感動したり、うるつときたり。そして自分の人生も見つめ直し、明日も頑張ろうと



いです。

(戸畑区・57歳女性)

●28号「雲のうえ旅行社」  
(2018年2月発行)

自分が旅行をして手帳に書き留めたような、飾り気のない、そのままの気持ちかわかるような文章に、ついつい引き込まれ読んでしまいました。わー、こんなところ行ってみたい! と、ついに北九州へ。「旅館むつみ関門荘」と向かいの酒屋さんをチェックし、小倉で松本清張先生好みの栗まんじゅうを買い、駅ホームの立ち食いそば、かしわうどんも食べ、とつても楽しい旅になりました。

(京都市・58歳女性)

楽しく拝読させていただきました。旅はどうでもいいことが楽しい、そんなことがもつとあってもよかつたのではないかと? と思いました。具体的な情報はいまや簡単に、いくらでも手に入れることができます。北九州市の魅

いう元気をもらえます。

(門司区・54歳女性)

●26号「工業都市の工業学校。」  
(2017年2月発行)

かつて社会科でも学んだ、北九州工業地帯の中心にある学校の数々。県外の人間からするといまだに重厚長大な雰囲気かと思いきや、今号の特集も含め、近年は未来志向というか柔軟に進化している印象を受けました。ただ、どの学生も柔軟な姿勢の中に一本筋が通っているあたり、北九州らしい伝統も脈々と受け継がれていて頼もしい。今後九州の工業をリードする人材を輩出する場所であってほしいと思っております。

(熊本市・47歳男性)

工業は私とはまったく無縁なもので、読んでもちんぷんかんぷんなのではなにかと思っていました。しかし読んでみると、学校で勉強している学生さん、先生の一生懸命に取り組んでいる様子

が伝わってきて、パワーをもらったような気がしました。なかでも、女の子の姿が印象的でした。頑張つてほしいです!!

(佐賀県基山町・44歳女性)

皆さん、読み込んでくださっていますね。うれし  
いです。さらに25号から21号へ、時間をさかのぼりましょ



●25号「ザ・関門海峡。」  
(2016年11月発行)

映画になった出光佐三さんの愛用机を見たくて門司の出光美術館に行ったのですが、巖流島に渡る渡船場にて目にした『雲のうえ』が面白く、帰りの電車の中で読みふけり、家にまで持ち帰っていまも机の上に置いてありま

す。ひとつひとつの文と絵、どれをとっても読む人にとってわかりやすく肩の凝らないもので、北九州への興味が湧き上がる内容。私にとっては大きな収穫になりました。

(福岡市・71歳男性)

旅先(滋賀県長浜市)で偶然手に取ったこの号。門司に住む方々の、自尊心に満ち郷土愛あふれる暮らしぶりに感動するとともに、平安時代から3度も大きな歴史の転換点の舞台となったこと、そして現在に続く発展の歩みが読みやすい優しい文章で綴られており、とても勉強になりました。門司を訪れたことではないので、地図を参考に、ゆっくりと奥行きのある観光をしてみようと思っています。

(兵庫県神戸市・63歳男性)

●24号「おやつ時間」

(2016年2月発行)

結婚するまで北九州で暮らしていた私。娘時代、母と一緒に井筒屋へ買い

物に行くのが楽しみでした。お土産に買って帰るのは、定番の井筒屋饅頭。昔懐かしい、変わらないおいしさです。そして、忘れてはならないのが「ドレンデン」のフルーツケーキ。夫の母が小倉育ちゆえ、このうやうやしいケーキを紹介してくれて、身内中で大絶賛でした。昨年夏、法事で親戚が集まり、最終日の夜に立ち寄ったのは湖月堂。おやつ特集は過去から現在に至る北九州の名品ばかりで、思い出が鮮明によみがえります。

(東京都江戸川区・42歳女性)

表紙をパッと見て、「あ、今号はおはぎ特集なのかな!」と思つたら、違いましたね。知らないお菓子の存在を知る楽しさ、馴染みのお菓子が載っているうれしさ。よけいにおいしそうに見える写真とイラスト。何度も見返してしまいます。北九州を離れ、頑張っている友人たちに送ってあげようと思います。「帰ってきたら、一緒に食べよう」っ。

(小倉南区・29歳女性)

中です。ぜひ、釜石の「鉄の歴史館」とコラボして展示会などを企画していただきたいです。

(岩手県紫波町・39歳女性)

佐木隆二さんの文章が心に深く残りました。短い文章の中に佐木さんの人生がぎゅっと詰まっているようで。平坦な人生ではなかったはずなのに、最期をああした美しい、しかもさりげない素朴な文章で結ぶというのは、なかなかできることではないと思います。何度も繰り返し読んでいます。

(東京都新宿区・33歳男性)

●22号「北九州うどん」

(2015年3月発行)

ホテルの部屋にあったうどん特集号を読みはじめ、すぐに引き込まれました。書き手の方々の視点、描写が見事で、うどんを通してその街で生活する人の

息遣いや街の歴史が感じられたからです。早朝から働く人に寄り添って愛されつつける北九州のうどんの多様な味がよくわかり、今度はうどんを食べる



●23号「世界文化遺産登録記念  
北九州の製鉄所」

(2015年11月発行)

八幡製鉄所は、83歳になる私の父が定年まで勤務していた会社。子どもの頃、仕事の内容を話には聞いていたが、現場を見る機会もなくこれまで過ごしてきました。今回の特集で、少し様子がわかりました。小学生だった私を連れて起業祭に連れて行ってくれた父も、いまは認知症で、グループホームで過ごしています。もう私のこともわからなくなりましたが、これからも元気でいてほしいと思っています。

(小倉北区・53歳男性)

紫波町の図書館にある、さまざまな都市のフリーペーパーが自由にもらえるコーナーで手に取りました。岩手の釜石も鉄とともに栄え、日本で3番目に鉄道が敷かれた街です。今回、北九州と一緒に世界文化遺産登録され、かつ、震災から立ち直ろうとしている最

ためだけに北九州へ来ようと思ったほどです。

(千葉県船橋市・59歳男性)

香川県在住です。うどん特集だったのでペンを取りました。うどんは、私たちの生活にもっとも身近な食べもの。『雲のうえ』を読んで、やはり北九州でもそうなのだということがよくわかりました。ごぼうの天ぷらうどん、好きです。最後に、讃岐うどんが固いというのは誤解です。固かったのは、単にゆで時間が足りないうどんを食べさせられたのだと思います。そんなゴリゴリしたうどんは、私も嫌です。

(香川県高松市・55歳男性)

●21号「海を渡ってきた北九州人」

(2014年9月発行)

21号の表紙、懐かしく拝見しました。10年前、フランスに行くためにフランス語を教えていただいたコモン先生! 初級クラスでしたがフランスの歴史を教えていただいたり、生きざま

を感じることができたり。あのときからフランスを好きになりました。先生の夢である、ルーアンと北九州市の姉妹都市の実現、楽しみです。

(福岡県水巻町・40歳女性)

たくさんの方々の活躍ぶり、生き方の様子から、同じ人間同士だということがわかりました。とくに、金桂満けいまんさんの人生に感銘を受けました。また、あらためて日本のすばらしさも実感し、日本人としてもつと自信と誇りを持って、外国の方々と仲よく共生共栄していけたらと願っています。

(鹿児島県南さつま市・28歳女性)

市外、県外からも数多く  
いただいているのが、あ  
りがたいですね。さらに、  
20号から15号にいただい  
たおたよりです



地に足の着いた、息の長い活動を続けていらつしやる各グループの皆さんと、幅広い年齢層のサークルの記事、涙したり笑ったりしながら読ませていただきました。頑張る子どもたち、若者たち、そしてシニアたちの姿に、本当に元気をいただきました。

(東京都港区・48歳女性)

とくに印象に残った記事は、動物園ボランティアの方の記事「動物と森と生活と。」です。私自身、動物園のエ

サは、ドッグフードやキャットフードのような総合栄養食品だと思っていました。それが、ボランティアの方による手切り、手作りだったなんて!! しかも動物に合わせて切り方も変えている……。私には1歳の息子がいて、現在も妊娠中ですが、次回から動物園に子どもと行くときは、エサを

食べる動物たちをじっくり見たいと思います。

(神奈川県横須賀市・28歳女性)

●19号「とどけ、歌。」

(2013年11月発行)

音痴なため音楽にあまり関心がなく、歌のサークルの紹介くらいに軽く考えていたのですが、読んでみると非常に重い特集でした。私もどこかのサークルに入会しようかなと思ったほど。福岡からの転居であり北九州市のことを知りませんが、市の歌の多さにもビックリでした。

(門司区・64歳女性)

小倉高校の応援歌のエピソードが心に残りました。私と同年のいとこも小倉高校のOBですし、かつての同僚もOGでしたから。《何であそこでエラーするんかつちゃー!》の方言、懐かしい。青春時代を思い出し、しみじみと感傷に浸っています。

(東京都江戸川区・40歳女性)

●18号「北九州市未登録文化財」

(2013年3月発行)

ページをめくるたびに現れる、ヘンなモノたち。この「ヘン」というのがいいですね。「これは何?」「なんでここに?」「誰かに教えたい」「いや、自分だけの秘密の発見にしておこうか」と、不思議なワクワク感。個人的には、須賀神社の狛犬が好きです。

(東京都新宿区・27歳男性)

とても面白かったです。とくに「花屋のチャーリー」には激しく感動し、読んでいて涙がこぼれました。チャーリーさんの思いはもろろん、彼の言動を《大人になったからといって誰もができるわけではないことを、大人になつて知るだろう》と評した文章にも感涙しました。

(山口県下関市・39歳女性)

芸能人じゃなくても、仕事や特別な分野で成功している人じゃなくても、

ユニークな人は自分の道を生きている人だと思う。そんなことをフワフワと頭の上で思った18号でした。

(福岡県春日市・26歳男性)

●17号「しゃべりい、ことば。」

(2012年10月発行)

表紙の《びびんこ》の意味がまったくわからず、これはとにかく読まねば……。いやあ、面白かったです。私のいる大牟田市は筑後地方の端っこですが、すぐわかる言葉もあり、ぜんぜん使わない言葉も、また使っていない言葉も少し意味合いが違う言葉もありました。《てれんばれん》は亡き母がよく口にしていて、懐かしく思い出しました。

(福岡県大牟田市・67歳女性)

4月から生まれ育った横浜を出て、北九州在住・在勤です。当初は北九州弁がとても



ティの象徴があつていいなとうらやましく思います。

(小倉北区・23歳女性)

### ●16号「北九州ラーメン」

(2012年3月発行)

ラーメン特集、とてもよかったです。昔よく行っていた「東洋軒」のおじさん、わー懐かしい！ 私たち夫婦も年を重ねてきたなあと、夫と感慨深く読みました。知らない名店、まだまだあるんですね。最近は何司の「大平山」が1番だと信じて浮気はしなかったのですが、1軒ずつ味わいに行こうと計画中です。

(小倉北区・52歳女性)

全国各地の情報パンフレットや地図などが置いてあるコーナーに御誌がありました。ラーメンの特集でしたが、おいしそうなラーメンを食べたくなると同時にお店の人々のドラマ、人間模様を読み込むことができ、心がジーンとしました。1杯のラーメンにこま

での人生が入っているのだなあと思いました。北九州市は、いつか行ってみたいと思っていました。必ず行ってみたい場所になりました。

(神奈川県横浜市・31歳女性)

### ●15号「ひとりの市民の話」

(2011年11月発行)

15号拝読。登場した10名ひとりひとりの人生が輝いていて、なんと味のあることか。真摯に生きてきた人ならではの真実だと思った。高炉で働く松崎さんの「三現主義」、医師・市川さんの「病気を診るのではなくひとを診なさい」、アパレル店主・住田さんの「楽しんで働け」などは、人生の極意そのものだ。ほかの人々にも共通しているのは、自分に対する厳しき、他人に対する優しき。この街そのものの性格だ。

(八幡東区・66歳男性)

福岡出身で、就職で上京しました。『雲のうえ』は都内で手に入れたのですが、はじめて読んだ「ひとりの市民

北九州市に本社がある会社を定年退職し、4年ぶりに来訪。往路の機内で『雲のうえ』をお配りします、とのアナウンスを聞いて、「わあー、まだ読んでいたんだ」と驚きました。

(千葉県流山市・64歳男性)

読んでいます！

好きなことを一生の仕事としてやっていけるというのは、本当にうらやましい気がします。各号の特集に登場する皆さんが、前を向いて生き生きとした毎日を送っておられる様子がよく伝わってきて……。

(小倉北区・54歳女性)

『無法松の一生』から、男くさい街というイメージを持っていた。東京で生活していると、地方の街はすべて疎化しているように見えるが、北九州市には可能性と人間味を感じ、都会での孤独が救われる。

(東京都昭島市・64歳男性)

その街に住んでいると、気づかないことも多いです。ステキな人、ステキなお店が、当たり前前の生活の中にとけこんでしまうから。『雲のうえ』という新たなメガネをかけて見たら、たちまち新鮮な風景が見えてきます。いつものことが新しいって、とても豊かで、ありがたいですね。

(小倉北区・46歳男性)

『雲のうえ』を読み終わると子どもに送っていました。そのせいか、娘、婿、小倉に定住してくれることに。宝くじに当たった気分です。

(小倉北区・93歳男性)

大当たりですね！

北九州で生まれ育ちましたが、大学の4年間と結婚してからの30年以上を首都圏で暮らしています。ここ数年は、老親のサポートのため毎月1週間帰省しています。それが苦にならないのは、この街が汲めども尽きない魅力

の話。」から、忘れていた温かさや懐かしさを感じました。また、自分のやりたいことをやっている人は年齢、場所関係なくカッコいい！ いままでは東京という場所にこだわっていたのですが、福岡でもやりたいことはできるのだと気づかされました。読んだあと、帰省して親に会いたくなりました。

(東京都西東京市・23歳女性)

ざっと10年ぶんのおたよりを振り返りましたが、いかがでしたか？ 『雲のうえ』の編集部には、このほかにたくさんのお声をいただいております。その一部を、ご紹介しましょう



たたえているからでしょう。『雲のうえ』は創刊号からすべて所有しています。ページをめくるたびに、北九州への愛があふれる編集姿勢が感じられ、幸せな気持ちになります。北九州に生まれて、『雲のうえ』に会えて、本当によかったです！

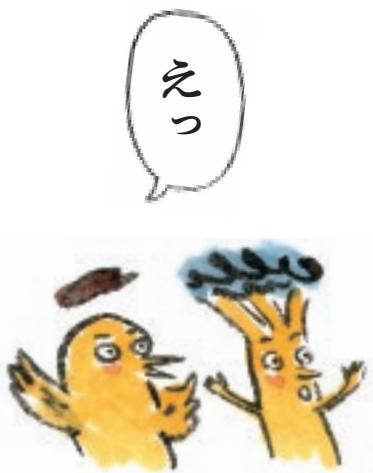
(千葉県松戸市・59歳女性)

私たちも、あなたに出会えてよかったです

北九州に住む普通の方々にはスポットを当て掘り下げるあたりに、ほのぼのとヒューマニズムを感じています。廃刊の噂を聞き、残念に思っています。

(山口県下関市・63歳女性)

えっ



ああ、懐かしの

# 北九州 あのお店・あの人・あゝの場所



誰の心にも、忘れられない  
思い出の詰まった場所がある。  
目を閉じると、まぶたに懐かしい顔が浮かぶ。  
コロナ禍で気軽に街を歩けない、  
訪問できないいまだからこそ  
思いは強く、思い出は、  
より鮮やかになるのでしょう。  
『雲のうえ』読者が選ぶ、  
これこそが「ザ・北九州」とは？

● お店・施設の営業時間、休日などのデータは平時のもの。新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言の発出、解除によって変化が生じる場合がありますので、訪問の前に確認ください。

## お店編

主人と食べ歩きを趣味にしています。いまのお気に入り、鳥町食道街の中の「N」(編集部注…イニシャル)のハンバーグです。手作りのデミグラスソースは絶品です。ハンバーグ特集、いつかお願いできませんか。

(山口県下関市・56歳女性)

Nをはじめ、鳥町食道街には洋食の名店が揃っていますよね！ ああ、行きたいなあ

門司港には昔、本当においしいお店がたくさんあった。「満州軒」のラーメン、もう1回食べたい「やきとり きんちゃん」(30号掲載)、「カレー」の店「正ちゃん」(鉄板焼の「好々亭」、食堂「小菊堂」(女の人ばかりだったので入れなかった)。前に行ったとき、「P」(編集部注…

イニシャル)がなくなっていた。あの肉まんは、もう食べられないのか。「普沼ビリヤード」のバアチヤンはまだ元気かな。ああ、なにかもが懐かしくて涙が出そう。門司港にはシャレた店は似合わない。泥くさくてハイカラな店がいい。

(福岡県小郡市・60歳男性)

「きんちゃん」のやきとり、最高ですよね。「P」は新しい店舗になって健在でした

● やきとり きんちゃん  
門司区東本町1・5・31  
17時〜22時  
日・祝休



写真=齋藤圭吾

## 早いもので創刊15年 『雲のうえ』の歩み

2006年以降、自治体広報誌界(?)の常識を揺さぶりつづけてきた本誌。あなたのお気に入りは何の号ですか？

創刊号「扉のない酒場へ。」  
(2006年10月発行)



街の酒屋の軒先で飲む、北九州伝統の市民酒場・角打ちを特集し、話題を呼んだ創刊号。いまではすっかり市の名所・名物に。

2号「おい、市場！」  
(2007年1月発行)



市民の台所として愛される、5つの区の特徴あふれる市場を紹介。取材当時は113箇所あった市場は、いまはいくつだろうか？

息子の好きなものといえば、「梅<sup>び</sup>月」(5号・24号掲載)のモダン焼。モダン焼のあとにはいつも小さなソフトクリームを。普通より小ぶりで200円、おすすめです。  
(門司区・37歳女性)

取材時点では16時閉店で、持ち帰り中心の営業とのこと。取材中の編集委員の憩いの場でもあります

●梅月

門司区栄町1・10

11時45分〜18時30分(平日)

11時45分〜17時30分(土・祝)

日休



写真=いわいあや

『雲のうえ』をはじめて手にした

●天ぶら ふじしま

小倉北区京町2・1・15 三徳ビル

地下1階

10時〜19時30分(19時20分オーダー

ストップ)

木休



写真=久家靖秀

若松<sup>わかまつ</sup>から月に数回、小倉に来ています。私の大好きな店は「古書 城<sup>しろ</sup>田」(28号掲載)。店の雰囲気といい、本の並べ方といい……ここに入ると、とても落ち着きホッとします。私の心の滋養です。

(若松区・45歳女性)

●古書 城田  
小倉北区浅野2・12・30  
11時〜19時/水休

のが、ちょうど1年前。これをきっかけに、なんとこの1年に3回も北九州に来てしまいました。2回目は友人夫婦とともに。今回は、夫とふたりで。おやつ特集を読んで、ぜひとも小倉<sup>こく</sup>駅周辺のおやつを食べなにと！ と思つての再訪です。「シロヤ」(10号・24号掲載)の40円のオムレットと「天ぶら ふじしま」(10号掲載)の天ぶらが食べたいという思いが捨てられず……。おいしかった！ でも、まだ心残りがあるので再訪したいです。  
(静岡県浜松市・48歳女性)

●シロヤ(小倉店)

小倉北区京町2・6・14

8時〜20時/1月1日休



写真=いわいあや



やきとり特集号(30号)の「焼とり とんとん」やきとり 王将<sup>おうしょう</sup>「焼とり 純たん」。行ったことがあるお店が載っているとうれしいし、人にスポットを当てた記事を読むと「あのお店の人、そんなだったの!」とますます魅力を感じます。よくよく考えたら、お店に行くのは、そのお店の人に会いに行きたいというのが大部分を占めていて、要は人なんです。

(小倉南区・36歳女性)

「純たん」は残念ながら閉店。でも「とんとん」と「王将」は持ち帰りを中心に、元気に営業中です! 感染対策をぜひ再訪を

3号「君は、工場を見たか。」  
(2007年4月発行)



昔もいまも、煙突は街のシンボルであり、アイデンティティ。八幡製鐵所をはじめ、北九州を、日本を造った工場群に迫った。

4号「誰も知らない小さな島。」  
(2007年7月発行)



え、北九州に島があるの? 県外の読者からは驚きをもって迎えられた離島特集。ええ、あるんです、特色ある濃い島々が。

5号「はたらく食堂。」  
(2007年10月発行)



働く人々の胃袋を支える大衆食堂、全27店を大特集。各店のアットホームな雰囲気に「読むと行きたくなる!」と反響多々。

6号「街の劇場。」  
(2008年1月発行)



小倉の街の中心にそびえる劇場。数々の演劇人が技を競った舞台、地元で活動を続ける劇団など、演劇の街・北九州の貌を紹介。

7号「馬と艇と輪と。」  
(2008年4月発行)



小倉競馬、若松競艇、小倉競輪。人々の血を湧き立たせ、明日へと向かう活力を養った熱い場所、そこに集う人々の表情を活写。

8号「振り向けば、山。」  
(2008年7月発行)



福智山系、貫山系、帆柱山系、そして足立山。父のようにそびえ立つ山々と、人々を包む緑。あなたはいつ登りましたか?

●焼とり とんとん  
八幡西区黒崎4・1・23  
15時〜23時  
水休



写真=齋藤圭吾

●やきとり 王将  
八幡東区尾倉1・3・16  
17時〜23時  
日休



写真=齋藤圭吾

昨年と今年、2年連続で門司に行きました。お目当てのひとつが、門司駅の近くにある酒店「有次酒店」。創業94年の歴史を持つ角打ちの名店であります。朝から営業しているのので、観光の途中にちよっと寄れるところがうれしい。

(東京都三鷹市・67歳男性)

●有次酒店  
門司区柳町2・4・14  
8時〜14時  
日・第3月休



北九州、とても個性的な路面店の洋服屋さんが多くなりました。若松の「LARENCONTRE」、小

倉魚町の「蜂月堂」や「M」(編集部注…イニシャル)など……。ファストファッションとは一線を画したお店を、メンズも含めて特集してもらいたいなと思っています。古着のお店も、ヨーロッパ系やアメリカ系が増えています。小倉の「古着屋BAYSON」さんの奥のお粥屋さんもおいしいですよ。

(八幡西区・58歳女性)

LARENCONTREさんはフランス、イタリアなどの直輸入品や国内ブランドを扱うお店。蜂月堂さんとお粥屋さんは閉店されたようですが、ほかのお店は営業中。BAYSONさんは昨年9月に魚町アーケード内に移転し、在庫も一層充実とのこと

●LARENCONTRE  
若松区浜町1・6・23  
12時〜19時  
水休



●古着屋 BAYSON  
小倉北区魚町2・2・7  
11時30分〜19時30分/不定休



人編

28号表紙の井村ららさん、別嬪さんどすなあ。若いってええなああと、

9号「祇園の夏。」  
(2008年10月発行)



一年が、夏から始まる街がある。小倉、黒崎、戸畑、北九州の3つの祇園祭に人生を賭ける人々のひと夏を収めた、熱い号です。

10号「銘店巡礼。」  
(2009年1月発行)



北九州といえば、あの店、あの店主。伝統の店、新しい店、知れば必ず通いたくなる店のストーリー、名物を、大盛りで。

11号「清張さん。」  
(2009年7月発行)



昭和の文豪は、この街で育った——。人間・松本清張の歩みを振り返り、ゆかりの場所や味を訪ねる、故郷ならではの特大集。

12号「海よ、波よ、魚よ。」  
(2010年1月発行)



山が父なら、海は母なるゆりかごか。周防灘、響灘、関門海峡の3つの海に船出し見つけた、海とともに生きる街と人の物語。

13号「一夜のまち。」  
(2010年9月発行)



陽が沈んでから、この街にもうひとつの陽が昇る。小倉、門司、若松、折尾。4つの盛り場を巡りながら見た、一夜の夢の跡。

14号「電車に乗って。」  
(2011年1月発行)



鹿児島本線、筑豊本線、日田彦山線、日豊本線、筑豊電気鉄道。街の歴史とともにどこまでも続く鉄路の旅を、文と絵で描写。

つくづく眺めております。

(京都市・67歳女性)

表紙モデルを務めた第8代・北九州看板娘の井村ららさん。看板娘の活動を通して北九州の観光に携わりたいと考え、大学卒業後に株式会社スターフライヤーに入社されました。「コロナウイルスの影響でお客様にお会いする機会が減って寂しいですが、皆さまからの応援の声に支えられ、日々、頑張っています。またたくさんのお客さまをお迎えできる日を心待ちにしております」(井村さん)



16号に登場した「拉麺 エルボー」の店主、福岡俊也さんは、私が大学生の頃、小学校から中学校まで家庭教師をしていました。「としくん」って呼んでいました。その頃からイケメンでした。いまはおいしいラーメン、作っていらっしやるんですね。心がほっくりしました。

(東京都中央区・53歳男性)

としくんこと福岡俊也さんよりおたよりをくださった方へ。「先生のことはよく覚えていますが、店が掲載されたあと、食べベにきてくださいましたよ。ありがとうございます。2年前に宗像市に出店した2号店は残念ながら閉店したのですが、もう一度1号店に力を入れて、皆さんに喜んでいただけるラーメンを目指します」(福岡さん)



●拉麺 エルボー

八幡西区光貞台1・1・1

11時～14時30分(土日祝は15時まで)

18時～21時

無休



写真=齋藤圭吾  
\*ラーメンは2012年撮影当時のものです

アフガニスタンの発展に尽くした中村哲さんの著書『天、共に在り』(NHK出版)が印象に残りました。その中で、北九州で幼少期を過ごしたこと、火野葦平が伯父にあたることを知りました。九州男児とよく言いますが、中村さんといひ火野さんといひ、とてもあつばれな男性です。

(秋田市・62歳女性)

●天、共に在り

アフガニスタン三十年の闘い

中村哲 著 NHK出版

1760円(税込)



28号の「雲のうえ旅行社」で、筆者の岡崎武志さんが映画『この天の虹』に触れておられました。昭和33年封切りのこの作品を、私はまだ観

たことがありません。旧・八幡製鐵所が舞台になった映画で、ずっとずっと観たい映画のひとつです。木下恵介監督のDVD-BOXを購入すれば観られるのでしようが……。

(小倉北区・52歳女性)

DVDのほか、iTunes、UNEXTなどの配信サービスでも観られるようですね

●木下恵介生誕100年

木下恵介DVD-BOX 第四集

〈9枚組〉(『この天の虹』収録)

22000円(税込)

発売・販売元・松竹

©1956～60松竹株式会社



あるとき仕事で北九州を訪問。先方との打ち合わせの終了後、「そういえば北九州には『雲のうえ』という雑誌がありますよね」とお話ししたところ、その方が「実は私、取材されたことがあるんですよ」と。

15号「ひとりの市民の話。」

(2011年11月発行)



生まれ育った人。やってきた人。帰ってきた人。さまざまな立場で街を見守る人。北九州に生きる10人、その十色の人生の物語。

16号「北九州ラーメン」

(2012年3月発行)



たかがラーメン、されどラーメン。井の数だけある味は、それを作り出す人のパーソナリティが染みている。全35軒の名店を紹介。

17号「しゃべりい、ことば。」

(2012年10月発行)



びびんこ？ シャッチが？ てれんばれん？ かべちよろ？ 愛すべき方言を大特集。使いこなせたら、あなたも北九州人。

18号「北九州市未登録文化財」

(2013年3月発行)



いつからそこにあるのかわからないけどなんだか気になる「アレ」は何？ 街のキッシュな名物、その由来を追いかけて。

19号「とどげ、歌。」

(2013年11月発行)



5市合併以前から歌い継がれてきた北九州生まれのあの歌、この歌。歌う人々の口から口へ伝えられた、愛おしい歌の来歴。

20号「生まれれば、仲間！」

(2014年3月発行)



高校生の部活動から大人有志のサークルまで、老若男女がいそしむ街のクラブ活動を大特集。読めば必ず参加したくなるはず。

さっそく市役所に行き、登場されたバックナンバーをいただき読みました。その方との距離がぐっと近くなったように感じました。その夜は香味家(27号掲載)さんでカレーを食べ、『雲のうえ』を見て来ましたと言くと、「あなたで2人目だよ」と喜んでくれました。

(神奈川県川崎市・35歳男性)

縁結びのお手伝いができて、よかったです。香味家さんも屋の営業に力を入れて、おいしいカレーを届けておられます

### ●香味家

八幡西区筒井町1・10

11時30分〜15時 17時〜22時/日休



写真=齋藤圭吾

## 特別企画 北九州「あの人」はいま

18号の表紙を見て、夫がひとこと、「これ、あの人じゃん！」え？とよく見ると、確かにあの人！ときどき見かける謎の自転車の男性が(自転車だったということも、今回判明)。少年なのか中年なのか、どこかの宣伝なのか趣味なのか、はたまた暴走族なのか？ いったい何者なのだろうかとつねづね不思議に思っていました。今号では謎が解けました。それにしても、すごい人がいるんですね！

(門司区・34歳女性)

丸尾少年は丸尾青年に成長。  
現在も元気に「改造中」です！

一見、手作りロボットののような自転車、夜ともなれば艶やかなネオ

合体させたものだという。

「最初に箱を買って、これに合う車を車屋さんに頼んで。組み合わせるときは、もちろん仕事で乗ってるクレインでこう、吊り上げて。ハハハ」ちなみに、箱の中は「仲いい友だちと集まって、遊ぶ用」のリビングルーム仕様。近々、エアコンもつける予定だ。現在は念願の公道走行に向け、整備に熱が入る。

「休みの日には家の前でいじってるので、近所の人が『今度は何、作りよん？』って声かけてくれます。弟たち？ もうぜんぜん相手してくれません(笑)。話が盛り上がるのは、やっぱり仲間同士ですね。デコトラが停まってるって声かけて『ここ、どうしとるんですか？』って聞いてみたり、向こうからも聞かれたり」

今後の夢を尋ねると「こういうのって、終わりが無いんで」と丸尾さん。求道者に、迷いは無縁だ。

「とりあえずいまの車をコテコテに飾りたい。車をずっと改造するのは永遠の夢……みたいな感じですね」



奥が懐かしのデコチャリ、手前が初代デコ軽トラ。やはり夜の姿が華々しい。(写真=丸尾さん提供)

こ勝手にやっつけてまして(笑)。1年くらい乗って、壊れて廃車になったんで、軽トラを1台買い直して飾ってそれに4年間くらい乗りました。飾り方は自転車とそんなに変わらないですけど、やっぱり車のほうがつけやすい部品もあつたりしましたね」

現在、愛車は2トントラックにグレードアップ。実はこれ、いわゆる「箱」と車体部分を別々に購入し、

ンを発する「デコチャリ」に——。18号特集「北九州市未登録文化財」に登場した丸尾龍一さんは当時17歳。あれから8年、電話取材に快く応じた彼は25歳の青年になっていた。「いまは運送会社で移動式クレーンを動かして、荷物を積んだり下ろしたりしてますね。コロナの影響？ さほどないですが、まあ、ちょっと仕事が減ったかな、というくらい」

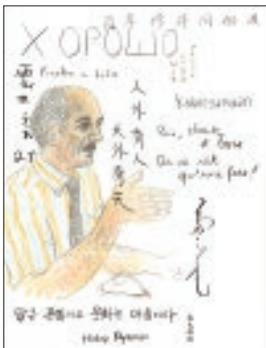


丸尾青年。素朴な笑顔は少年の日とちっとも変わらず。最新作にして念願のMyデコトラとともに。

高校卒業後、自動車整備の専門学校に通いはじめるやいなや、即、免許を取得。デコチャリからデコトラ

### 21号「海を渡ってきた北九州人。」

(2014年9月発行)



アジア、アメリカ、ヨーロッパ。数奇な運命に導かれてこの街にやってきた人々の暮らし。縁、その不思議さを実感する号です。

### 22号「北九州うどん。」

(2015年3月発行)



井に入るのは、ラーメンだけじゃありません。特色があるのかなのか、この街のうどん事情。追ってみれば、実にディープ。

### 23号「世界文化遺産登録記念 北九州の製鉄所。」

(2015年11月発行)



そびえる高炉は街のシンボル、いまも昔も北九州人の誇り。晴れて世界のレガシーとなった製鉄所と街の歴史を紐解く保存版。

場所編

6月、娘に誘われて皿倉山に行きました。ふたりとも膝やら腰やら痛みを抱えてはいるのですが、ケーブルカーがスルスルと運んでくれ、新緑と紫陽花の中を通り、頂上からは自然豊かな部分とビルや工場、交通網など、北九州の景色を十分に堪能してまいりました。少々身体が痛くても、出かけるとやはり楽しいです。

(福岡県粕屋町・78歳女性)

「コロナ禍のいまではありませんが、密を避けられるスポットとして、来られた方々には好評です。春から夏にかけては爽やかな空気が楽しめますし、夏にはビアガーデンも開設します。コロナが収束したら、思い切り楽しんでください！」と皿倉登山鉄道株式会社の吉田茂人さん。ちなみに吉田さんは『雲のうえ』創刊号の角打ち特集に登場した「Y課長」です！



●皿倉山ケーブルカー  
八幡東区尾倉1481・1  
10時〜21時



中津の人間は、北九州に遊びや買い物に行きます。路面電車があればよかったのになあ。小倉駅を降りて右側の、あのエロティックなゾーンが好きです。

(大分県中津市・58歳女性)

大人ですね！

29号に登場するます漕ダムには、20年ほど前に母、祖母と3人でサイクリングした懐かしい思い出があり

ます。いまは祖母も85歳になりましたが、あのとき連れていってくれたことに感謝です。

(千葉市・29歳女性)

●ます漕ダム  
小倉南区道原・頂吉。



写真=久家靖秀

関門海峡を歩いて渡りました。この上が海かと思うと、不思議な感じがしました。

(広島市・40歳女性)

関門鉄道トンネルの下関側の入口がある彦島に住んでいます。入口の

すぐそばも何度も歩いたことがあるのですが、九州と本州をつなぐ6本の道の中でもっとも古いとは知りませんでした。70年以上前に開通に携わった方々がいたのだなあと思いを馳せています。新トンネルも彦島からつながるかも…という話を聞いたことがあります。あらたなトンネルの開通に立ち合える可能性があるかもしれないと思うと、いまからわくわくします。

(山口県下関市・32歳女性)

井手浦浄水場の近くには、よく遊びに行つて、カワセミを見たりしていました。浄水場の見学はしたことがありませんでしたので、今度孫たちと行つてみたいと思います。

(小倉北区・69歳男性)

北九州は近いので門司や小倉、豊前などを何度も訪れています。興味があるのは平尾台の洞窟です。もう取り上げられましたか？

(山口県防府市・43歳女性)

24号「おやつの時間。」  
(2016年2月発行)



幼い頃の思い出の味。毎日味わいたいあの店、あの品。ゼーンぶ取り揃えました。和洋新旧の北九州おやつ、どれにします？

25号「ザ・関門海峡。」  
(2016年11月発行)



源平の昔から現代まで、何度となく時代の転換点になった場所。海峡歴史を振り返りつつ、波に洗われながら生きる人々を紹介。

26号「工業都市の工業学校。」  
(2017年2月発行)



ものづくりは国の礎。鉄鋼、化学、電機、多種多様な工場群を抱えるこの街で健やかに伸びる、若き才能たちに出会いました。

27号「幸福の黄色いカレー」  
(2017年11月発行)



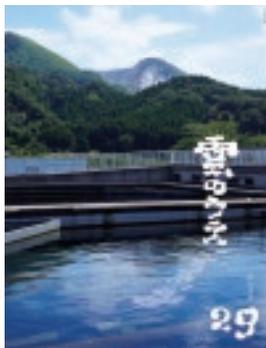
懐かしいルーカレーも、エキゾチックなスパイスカレーも、みんなこの街の顔になる味。読めば食欲増進必至のカレー特集。

28号「雲のうえ旅行社」  
(2018年2月発行)



旅の定番、名所旧跡から最新スポット、映える景色まで男子旅、女子旅のプランを提案。北九州を旅するなら必読必携の一冊。

29号「北九州、市民の水。」  
(2018年11月発行)



地を育み、街を、人を潤す水はいったどこから来るの？ 澄んだ水、その源流を求める旅で出会った、水を護る人々とは。

2008年発行の8号、山特集で訪問しました。山の地下にあんな異世界があったとは！

●千仏鍾乳洞  
小倉南区平尾台3・2・1  
9時〜17時(土日祝は18時まで)



写真=石川直樹

若松によく行くのですが、市バスに乗り湾岸ロードを通って若戸大橋を渡るまでの風景は、朝の様子も夜景もちよつといいですよ。また、渡船での行き帰り、朝夕の若戸大橋下の洞海湾クルージングもおすすめ。

(小倉北区・62歳男性)

北九州の出身で、卒業してから

「枝光本町商店街アイアンシアター」に、いつか行ってみたいのです。小学生の子どもたちや商店街の人たちも気軽に稽古場にやってくるような場所でありながら、日本の演劇の最先端の場所のひとつ、だそうです。(東京都新宿区・34歳女性)

上限80名の小規模シアターは、商店街の盛り上げにもひと役買っている頼もしい場所。コロナに負けない演劇人を応援したいですね

●枝光本町商店街アイアンシアター  
八幡東区枝光本町8・26  
10時〜22時  
不定休



ずっと東京で働いています。小倉のマカロニ星人の話をよく会社の人にしていたのですが、なかなかあのシニールな様子を伝えきれずにいました。が、18号に載っていた写真を見せることができ、部署の皆が面白がってくれました。いつか本物を見てもらいたいです。

(東京都文京区・30歳女性)

作品名は「宇宙七曜星の精」、作者はグラフィックデザイナーの福田繁雄氏です。小倉中心部、紫川にかかる中の橋(通称・太陽の橋)の上に7体設置されていますので、ぜひ職場の方々とともにコンプリートしてください！



写真=長野陽一

インスタに代表されるように、SNSの隆盛が何気ない街の風景を一大観光地にしてしまうような現象が起きている昨今。「雲のうえ」のように、ディープな箇所目をつけて案内するような冊子は、定番のガイドブックよりも時宜にかなっていると思います。私のおすすめは、若松の「軍艦防波堤」。いいですよ。

(福岡県中間市・53歳男性)

ディープな情報、ありがとうございます！



●軍艦防波堤(響灘沈艦護岸)  
若松区響町1



30号「北九州やきとり豚バラ日記」  
(2019年2月発行)



やき「とり」なのに、豚バラ？ そうです、それこそが北九州の懐の深さ。煙の向こうに息づく人情味も濃厚な、やきとり礼賛。

31号「北九州スポーツ探訪」  
(2019年11月発行)



ラグビーW杯に五輪、スポーツの檜舞台を目指す北九州のトップアスリートたちを大特集。目指せ日本一、そして世界一へ。

32号「すし並一人前から眺める北九州」  
(2020年2月発行)



3つの海から届く魚を味わうなら、すしが一番。全国区の銘店から街の人気店まで、あなたに代わって暖簾をくぐりました。

別冊

「銀天街で会いましょう」  
北九州の商店街を歩く  
(2010年3月発行)



2号の市場特集に特別取材を加えて再編集した、商店街・銀天街の特集号。『雲のうえ』の姉妹号とも呼べるレアな一冊。

バックナンバーのこと

『雲のうえ』は多くの号が在庫切れです。郵送でご注文いただける号については、北九州市にぎわいづくり懇話会のウェブサイトをご参照ください。

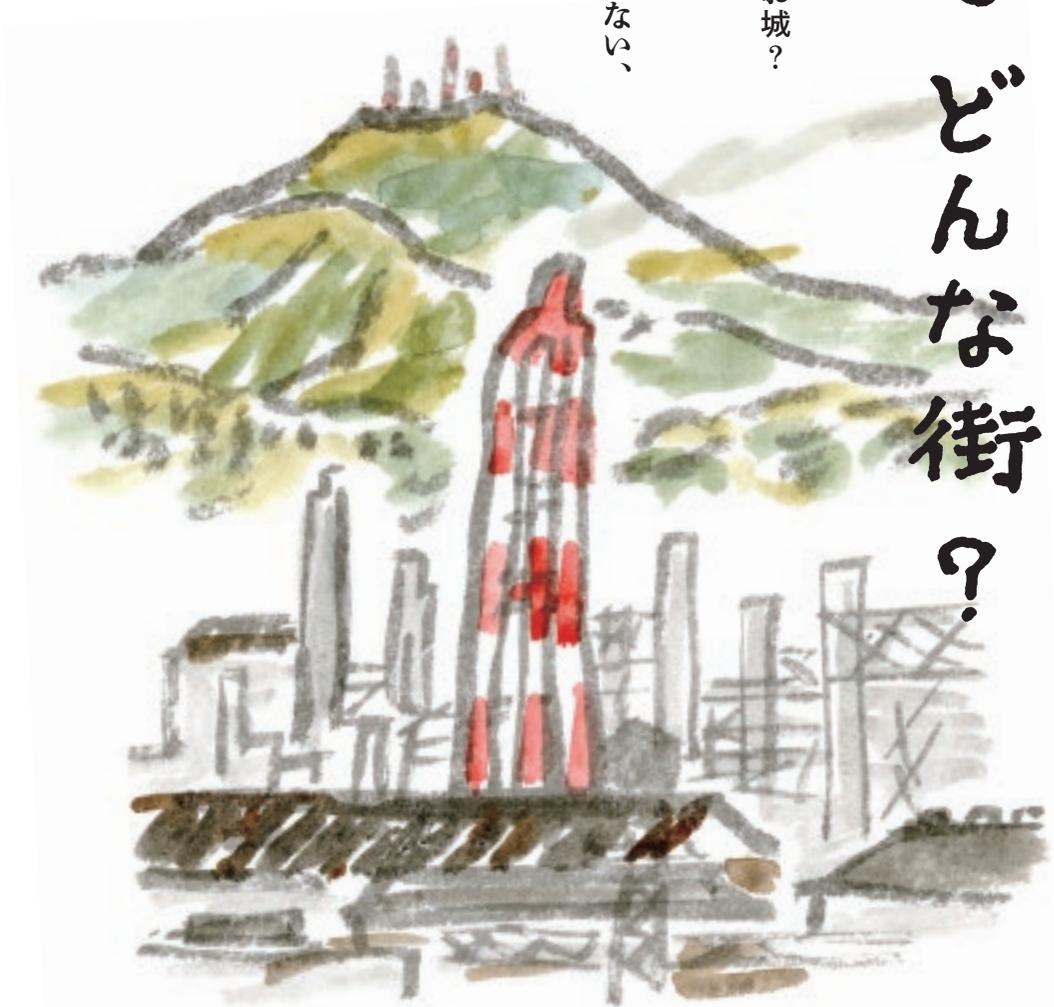
また、最初期の創刊号から5号については、合本化され西日本新聞社から発売されました。現在は品切れですが、古書店等でお求めいただける場合があります。

●北九州市にぎわいづくり懇話会情報サイト  
情報誌『雲のうえ』一覧  
[https://www.lets-city.jp/03\\_kumonoue-list.php](https://www.lets-city.jp/03_kumonoue-list.php)

●『雲のうえ 一号から五号』  
北九州市にぎわいづくり懇話会 編  
西日本新聞社 1430円(税込)

# 北九州ってどんな街？

北九州といえば「鉄」？ 小倉のお城？  
それとも関門海峡？ 成人式？  
コワモテの誰かさん？  
いやいや、ひとことでは言い切れない、  
そして一面では語れないほどの、  
奥深い味わいのある街なんです。  
『雲のうえ』読者が感じている  
街のイメージ、魅力の源とは。



## 市内在住です

\*日本の産業革命に寄与した底力を感じる。

(門司区・70歳男性)

\*一見つつけんどんで「ひえっ」と思うけど、意外と優しい人、みたいなの？

(若松区・42歳女性)

\*わっしょい百万夏まつり、小倉祇園、戸畑祇園、黒崎祇園など、祭好きのイメージ。

(小倉南区・37歳男性)

\*以前、広島出身の大学生から「北九州の小学生は学校で手榴弾からの逃げ方を習う」と聞いて育ったと言われました。そんなことは絶対ない！と否定したのですが……。正しく楽しい都市伝説を広めていきたいです。暮らしやすい街ですから。

(八幡東区・70歳女性)

## 市外より

\*「鉄の街」のイメージでしたが、今は、そのよいところを残しつつ、徐々に変わろうとしていると思いました。

(小倉南区・40歳女性)

\*住みやすい・人が温かい・ロケ地が多い。

(八幡西区・41歳男性)

\*リノベーションに挑戦している街だと思う。まだまだポテンシャルを秘めているはず。

(八幡西区・36歳男性)

\*北九州市観光ガイドボランティアを12年続けてきました。歴史、景観、未来性などに恵まれた街だと思います。ますますの発展を願っています。

(八幡西区・78歳男性)

\*『雲のうえ』を読んで、市民にとっては何気ない光景が、価値ある資源になるのだと再認識できました。

(小倉南区・47歳男性)

\*関門海峡と製鉄所、それにバナナの叩き売りしかイメージできない……。でも、訪ねたい場所がたくさん。

(長野県千曲市・42歳男性)

\*ハデな成人式をやっているイメージ。

(山口市・41歳女性)

\*地方都市は日本中どこも似たり寄ったりにも思えるが、北九州は旧5市以来の歴史に富んだ都市で、奥が深い。

(沖縄県中城村・46歳男性)

\*地域に根ざした生活に力強さを感じました。皆さん、北九州市が大好きでいらっしやる。と。

(東京都小平市・30歳女性)

\*力強さ、荒っぽさの中に、優しさや素朴さがあり。そこが素敵。

(東京都調布市・38歳女性)

\*身近なものを大切にして、心地よく生活してそう。地元愛が強そう。

(宮城県名取市・21歳女性)

\*ノスタルジックなものを街の人たちが大切に行っているイメージ。

(千葉県八千代市・48歳男性)

\*しぶとく地道に頑張っているなあ。

(埼玉県所沢市・65歳男性)

\*街の人が優しく、食べものもおいしく、治安もよかったです。必ず、また行きます。

(島根県浜田市・50歳女性)

## 色でいうなら

\*色でいうと、かつては灰色1色だったのが、水色、茶色、赤錆色を散らした、工芸和紙のような色合いに変わったと感じます。

(東京都西東京市・48歳男性)

\*昭和38年の大合併。当時、大学へ入ったばかりの私には、5つの市が自我を捨てて対等に合併されたということがとてもすばらしく思えました。市民の皆さま方が地域のためにエゴを捨てて手を結んだと思えたからです。

(岡山県浅口市・67歳男性)

\*自分が在住していた30年以上前と比べて、空の色、海(洞海湾)、川(紫川)が以前よりきれいになっている。

(神奈川県川崎市・57歳男性)

\*本当にアットホームな街やと実感しました。

(小倉北区・49歳男性)

\*離れてみて、いいところだなーとあらためて思いました。

(愛知県名古屋市中区・36歳男性)

\*生まれ育って93年でも、まだ知らない場所があります。

(小倉北区・93歳男性)

\*これまでは、労働者の力強い褐色。いまは、市民主体のベージュ。

(千葉県船橋市・59歳男性)

\*下関の彦島の出身。幼い頃から、北九州は一種独特のセピア色の、ちょっと涙が出るようなイメージを持ちつつけています。

(東京都国立市・45歳女性)

## 北九州、わがふるさと

\*30年近く北九州で生活してきて、よさを再確認しています。「北九州は人情あふれる、血の騒ぐ街」です!!

(千葉県船橋市・40歳女性)

\*住んでいたとき以上に親しみを感じ、多くの人々の暮らしに共感、愛着を感じている。

(福岡市・64歳男性)

\*人口が100万を切り、ちょっと

## イメージチェンジ、しました

\*いいところ結構あるやん！と再認識しています。

(小倉南区・53歳女性)

\*工業都市のイメージから文化都市へと変化しました。

(福岡県中間市・70歳女性)

\*社会科で工業地帯と勉強していたので堅いイメージでしたが、絆の深い、ほっこりと温かい街のイメージに変わりました。

(埼玉県さいたま市・44歳女性)

\*都会でも田舎でもない中途半端な街から、少しは見どころのある街へと変わった。

(小倉南区・37歳女性)

\*テレビなどではヤクザのイメージが強いですが、実際に来てみると違って

元気がないかなあと思っていました。どうしてどうして。元気そう!

(福岡県大牟田市・70歳女性)

\*北九州は故郷。「雲のうえ」を読むと里心がつき、帰りたくなります。東京の友人も「こんなに素敵なお店があるんだね」と言っていました。がちがちとした魅力が伝わってきて、とてもうれしくなります。

(東京都豊島区・33歳女性)

\*高度成長期の栄華も遠い昔、というイメージだったが、変わらないものと変わっていくものがバランスを保ちながらますます輝いている、そんな故郷だと思っています。

(千葉県松戸市・57歳女性)

\*小倉市、八幡市という地名がノスタルジーとして強くありまして、すみません「北九州市」という名前は、あまり好きではありませんでした。が、この冊子には圧倒されました。

(東京都武蔵野市・64歳男性)

いました。

(東京都江戸川区・60歳女性)

\*高齢化のイメージが強かったのですが、頑張っている若者がたくさんいると感じました。

(福岡市・41歳女性)

\*正直、怖い人が多いイメージでしたが、ひとりひとりが芯のある、熱い人ばかりなんだなーと思いました。

(大分県由布市・44歳女性)

\*かつては、青空でなく灰色の空。でも、工業地帯ゆえの環境の悪さから見事脱皮され、現在では環境の優れた都会の見本として注目されていることに感動しています。

(福岡県久留米市・77歳女性)

\*とくに声を大にしてアピールできる街ではないと思っていましたが、知らない人にもいいところだと自信を持って言えるようになった。

(小倉北区・35歳女性)

\* 個性的な人、空間がたたくさん存在することを知りました。

(八幡東区・33歳男性)

\* 10代、20代の頃はつまらないと感じていたが、年齢を重ねるにつれて北九州(小倉)もよい街だなあとと思うようになった。

(小倉北区・34歳女性)

\* 自分が生まれ育った場所にたくさん訪れるべき場所、知るべき歴史があることを再認識した。

(埼玉県久喜市・63歳男性)

\* 明るくなった。清潔なイメージになりつつある。もっと情報発信して街に活気を!

(小倉南区・60歳男性)

\* 鉄の街、工業地域……という無機的印象から、多様な市民、人間がよりヒューマンな空気を醸し出しているイメージへ。

(熊本市・60歳男性)

\* 文化不毛の地と思っていましたが、このような素敵な本が生まれてうれいのです。

(戸畑区・52歳女性)

\* 九州に旅行に行くとき通過するところとしか思っていまへんでしたが、いまでは目的地が変わりました。コロナが落ち着いたら、ぜひ訪れたいです。

(岡山県玉野市・36歳女性)

### 変わらないでいてほしい

\* 以前15年間住んでいましたが、北九州の人は明るく面倒見がよいです。口はばばしい(編集部注・激しい)けれどやるときはやる、元氣いっぱい力いっぱい生きています。裏表がなく気持ちのよい人たち。

(山口県下関市・56歳女性)

\* 人情味あふれる職人の街。北九州市は怖い、汚いなどと言われていました

遠く近く、それを見たい。

日々の暮らしや街の表情からみれば、北九州は、方々で急速に消滅しつつある土地のにおいや陰影といったものを、まだ残している。地理や歴史がつくるひととき濃い風土が、血や肌に熱を感じさせる。他に類のないこの風貌のなかに酸素を送りこみ、魅力的な未来を築く方法はないだろうか。

創刊号では「角打ち」をとりあげてみた。これからも北九州の街かどを虫眼鏡で、同時に雲のうえからながめていく。この街にふさわしい歩みのテンポを見つけるためである。小誌が街づくりに、そして市外から関心を寄せていただくよすがになれば幸いである。

(2006年10月記す)

続いては、『雲のうえ』の成り立ちについてのご質問です。

私は東京に住んでいます。生まれは長野県の佐久市というところです。いざ戻らなくてはならないのですが、まったく地元に興味が持てません。いま、まちおこしのような何かができないかと模

が、最近では東京から来た知人にも「北九州は面白い、いい街だよ」と言われます。北九州に住んで28年。私は、この街が大好きです。

(小倉北区・55歳女性)

\* 私は異邦人である。それだけに、この街のさりげない優しさを十分に感じる。ここを終の住処にしたのは正解だったと思う。

(八幡東区・66歳男性)

\* 「工業のまち」「歴史のまち」といった、カテゴライズされたイメージがありました。が、当たり前ですが、そこで暮らし、仕事をし、楽しんでる人たちがいる。『雲のうえ』を読んで、「まち」であること、その魅力をあらためて感じました。

(神奈川県川崎市・35歳男性)

\* これからも、ほっこり北九州を発信しつづけてください。私もいつか、寄稿できたらいいなあ。

(福岡県苅田町・32歳女性)

索しているところです。『雲のうえ』がどのような経緯で作られたのか、知りたいです。

(東京都目黒区・35歳女性)

……うーん、これを語り出すと、たぶんあと5ページは必要になりますので、大胆にひとことまとめると「いろいろあって」です(ごめんなさい)。

ちなみに、編集委員は歴代全員、東京近辺に在住で、出身地もバラバラです。つねに新鮮な視線で北九州を眺め、記事作りを行っています。

#### ● 今号の表紙について

そのつもりはなかったのに、気づくと編集委員の有山達也君を描いていた。『雲のうえ』の取材では、あるがままの街の姿を伝えたいと鉛筆を風景に渡すようにして描く。取材のなかつた今回、僕の鉛筆は、いつしか一緒に長く取材を続けてきた彼の姿をなぞっていた。木版画にしたのは、読者はがきだけで作る北九州市民文集のようなやもすれば地味になりかねない誌面に深みや味わいを持たせたいと思ったからだ。頬を流れる涙は、はがきを読んでるうち自然とあふれてきた、うれし涙である。

### いまさら聞きにくいあなたも必読『雲のうえ』への素朴な疑問

『雲のうえ』は以前から愛読していましたが、ふと、この冊子名の由来は何だろうか? と。ぜひ教えてください。

(戸畑区・59歳女性)

ご質問、ありがとうございます。「飛行機で配っているから?」とお思いの方も多いですよね。編集委員・牧野伊三夫(小倉南区出身)が創刊号の編集後記として記した文章を、謹んで再掲します。ヒントになりますでしょうか。

\*

かつて司馬遼太郎が歴史小説で、近代国家の草創期であった「楽天的な」日露戦争までの明治時代を、「坂の上の雲」にたとえた。誰もが青い天の雲のみをみつめて坂をのぼった時代をはるか後にして、雲のうえに出た今、ひらけているのはどんな風景なのだろうか。ことしは新北九州空港も開港した。古くから国の政策のもと、製鉄を中心とした工業の面で日本の近代化になつてきたこの街から、

復活!

## 街のうた／街で、ひとり

こんな生活、よく一年中やってられるね。ステイホーム、テレワークが浸透しはじめた頃、友人知人からそんなふうに言われた。

正確には一年中、それを20年近く、である。物書きにとってはステイホーム、テレワークが当たり前。目の前にぶら下がる締め切りに向かって、不要不急の外出を極力控え、ひたすら机に向かって原稿を書くのが、新型コロナウイルス感染拡大前からの日常だ。

だから、10年前まで『雲のうえ』の編集に携わっていた頃は、仕事人生の中ではちょっと特殊な時期だったといえる。

3か月おきに（初期は四半期に1度の発行だった）5日から7日間程度、編集委員たちとともに北九州へ赴き、市のスタッフと合流して街をくまなく巡ってネタを拾う。いったん東京に戻って打ち合わせや準備を重ね、写真家と書き手を伴ってふたたび1週間ほどの取材旅に出る。当時の手帳を開いて確認すると、1年のうちだいたいひと月半くらいは北九州に滞在している勘定だった。いまいる場所と実家のある出身地以外、こんなに長い時間を過ごした街は世界中どこにもない。

さらにこの仕事が特別だったのは、集団作業であったことだ。朝、宿のロビーに集合し

起き上がって宿を出て、発作的に近くの大型書店に入った。

棚を巡り、目についた本をどんどんカゴに放り込むと、宿に持ち帰ってベッドの脇に積み上げた。その日は夜中まで読んで寝、起きては読みを繰り返した。

そんなことができるのかどうかかわからないが、カラになったバッテリーを充電するように、自分の中に言葉を溜めたかったのかもしれない。幸い、翌朝には滑らかに話せるようになっていた。このやり方は、同じような状態に陥ったときにいまも実践している。

ひとりきりで経験したことといえ、もうひとつ、忘れたい瞬間がある。

通うようになってまだ間もない頃、空港からのバスに乗り、ここがおそらく最寄りだろうと思われるバス停で降りて宿を目指した。方角的に間違いないと信じた小道は、実はネオン街に続く裏道で、大荷物を抱えて辿り着いたのは、紳士たちがたむろする猥雑な盛り場だった。

嬢ちゃん、どこ行くん。その声を聞いたのは、宿に電話し泣きつこうとしていたときだった。携帯の画面から目を落とした先に



てから日中、ときには夜遅くまでの取材中、スタッフは基本的にほぼ団体行動。仕事の合間に食事をし、景色を眺め、真剣に話し合っているうちにたまに言い合いになり、それも行き詰まると誰からともなく冗談を言ったりははじめる。コロナ禍の現在からすると、信じられないくらい「密」な世界だった。

しかし、普段が普段であるからして、こうした日々が長く続くかどうかでも疲れが出る。ひとりの時間がたまらなく欲しくなる。

そんなわけで、北九州での日々を思い出すと、皆で過ごした時間と並んで、ひとりで歩いた街の記憶もよみがえる。定宿があった関係で、その大部分は小倉の街の思い出である。朝は1分でも長く寝ていたいほうなのだ。小倉に来ると不思議と早起きになった。朝食を摂り、時間に余裕がある晴れた日には、よく紫川沿いを歩いた。海と同じく、川の水位にも川面の表情にも日ごとに変化があることを知った。早朝の川面はだいたい凪いでいて、水鳥が何かをついばんでいる様子や、魚が跳び上がるさまを見ることができた。

昼間に時間がぼっかり空いたときは、だいたい日過市場か銀天街を覗いた。見たことの

ない野菜や珍しい魚、生のちゃんぽん麵（関東ではあまり手に入らない）などを発見しては、台所を持たない旅暮らしをつくづく残念に思った。おやつの中には、一杯点ての抹茶を出す喫茶店がよく休憩をした。

夜、打ち合わせを兼ねて夕食のテーブルを囲んだあと三々五々となり、ホテルに帰るのがまだ少し早いときは銀天街から横道に入ったところにある珈琲店に行った。デパートの近く、郵便局のある並びのビルの2階と言ったら、思い当たる人もいるだろうか。クラシック音楽が低く流れ、無口なマスターがカウンターに立つ店は、咳ひとつするのも憚られる空間だったが、クールダウンには最適の場所だった。濃いアイスコーヒーと甘いミルクが層になったオ・レ・グラッセが沁みだ。

長時間人と対話する取材が何件も続いたあるとき、もうこれ以上は言葉が出てこないと言った。話す言葉のストックと、緊密な関係を保つための根気を使い切ってしまったのだろう。その日の午後の予定をキャンセルさせてもらい、宿に戻った。しかし、ベッドに横になっても何かが違う。求めているのはただの休息ではないのだと、

らうろろするなよ、と子どもを叱るような口調で言い、雑踏へと姿を消した。大勢の人が行き来していた中、声をかけてくれたのはたったひとり、あの人だけだった。

ウイルスの蔓延という誰にとっても思いがけない出来事で、街は変わったのだろうか。昨春の感染拡大以降、おいそれと出かけることが叶わなくなってきたから、市内に設置されているライブカメラ越しにときどき北九州の景色を眺めた。

春先は、どこかカメラからも本当に人の姿が消えていた。市内での感染拡大を告げるニュースが全国にとどろいたときも、紫川は凪いでいた。

夏が過ぎ、秋が来て冬になり、今度はこちらに余裕がなくなった。首都圏にアラートが響く中、カメラ越しの紫川や板櫃川、黒川の沿岸（川がらみの映像が多いのは、防災情報のウェブサイトのカメラが多いからである）は実に平和そうで、うらやましかった。

通った店は健在だろうか。エナメル靴のあの人にテレワークはあるのだろうか。仕事で出会った、シャイだけれど人情に篤く、賑やかなことが好きな街の人たちは、それぞれひとりの時間をどう過ごしているだろうか？

元気で、必ずまた会いましょう。画面を開くたびに、そう念を送った。ひとりの時間が長引くと、こうして仲間が、喧騒が恋しくなるのだから、わがままなものである。

人に物語あり、はがきに人生あり

# 私と北九州

ひとつの街が、ありました。  
多くの人が、そこで生き、学び、働いてきました。  
生まれた人、訪れた人、去っていく人、  
留まることを決めた人。  
ひとりひとりの顔が、声が、思いが、時間が、  
はがきの中にもありありとよみがえり、  
それは確かに、いまでも息づいています。



## 念願叶って

3号からずっと愛読しています。いつかは北九州に旅行に行きたいと思いつながら、なかなか行けませんでした。つい先日ようやく行くことができました。天気にも恵まれ、50年前に見た赤い若戸大橋を、きれいな青空の下でまた見ることができました。

『雲のうえ』を読んで出てきていた地名、門司、小倉、戸畑、若松。そんな地名の位置関係もあらためてきちんとわかりましたし、いままで文字でしかなかった地名がその地の空気や光、人の息遣いを伴っていきいきと見えてくるようになりました。工業都市で煙突から煙が出ていて……というイメージでしたが、空は青く澄みわたって自然も豊か。とてもいい街でした。

(香川県高松市・59歳男性)

## 母と息子で

『雲のうえ』は息子の赴任先である小倉のビジネスホテルで見つけ、訪れるたびに手にするのを楽しみにしています。本の大きさ、写真の多さ、文章

の面白さ……ウマイと思います。バックナンバーも注文してしまいました。息子はすぐにこの街の魅力(魚のおいしさ、酒の旨さ、人の情の篤さ)の虜になり、すっかりハマっている。その訳が、北九州を回っていて納得しています。

(山梨県上野原市・56歳女性)

## 親子でファン

娘が北九州の大学に進学(今年卒業しました)。6年住んで私も数回行き、行くたびに北九州が大好きになりました。実は35年前に北九州を訪れ、小倉城の近く、魚町など回り、こんなステキなところに住んでみたいとずっと思っていました。

縁あって息子も福岡の大学に進学し、就職は北九州へ……。これからも北九州のファンのひとりとして応援していきたいと思います。

(鹿児島県枕崎市・57歳女性)

## 父なる街

北九州出身で他界した父が、いつも

お国自慢をしておりました。その父と重なり、頑固なイメージだと思っていたのですが、『雲のうえ』を読んで、それは「こだわり」だったのだと知りました。

父が定年したら訪れる予定だったのですが、叶いませんでした。ついに紹介できなかった主人とともに、父の足跡を探しに、北九州を訪れてみたいと思っています。

(神奈川県横須賀市・39歳女性)

## アルバムを開くように

取引先の会社社長より「あなたのふるさとのことが出てるよ」と言われていただいた『雲のうえ』。脳梗塞でリハビリ中の身には、ただただ懐かしい内容だった。

八幡西区の陣原生まれ。門司の駅舎、バナナの叩き売り。黒崎にあった八幡製鐵所購買会は健在だろうか。起業祭の日は小、中学生には楽しい休日だった。駅、商店街、西鉄電車、大谷会館等、古いアルバムを開きたくなった。

(埼玉県所沢市・66歳男性)

### 嫌悪が慕情へ

先日、母が脳梗塞で倒れ、看病のため頻繁に北九州―羽田間を往復しています。そこで、手にした19号に載っていた赤坂小梅さんの生涯が、母の半生と重なって見え、胸が締めつけられました。地元への思いが嫌悪から郷愁、そして、慕情へと変化していくのを感じました。

地元・小倉で暮らしていた青春時代、ガラも悪く粗暴な地元を一刻も早く脱出したい思いでした。が、御誌を通して北九州の知らなかった魅力が発見でき、郷愁に駆られています。

(東京都渋谷区・32歳男性)

### 小倉のひと

2年前まで大学の教員をしていた。同僚の女性のひとりが東大卒の文化人類学者で、出身は小倉。普段は温厚だが、理不尽なことに直面すると血が沸き立つ。「私じゃ、小倉の出身じゃけん！」とタンカを切る様子が、いまでも懐かしい。

(北海道札幌市・68歳男性)

### 街と歌と私

15歳のとき、島原から北九州に住み着いて56年。市制50周年とほぼ同じ年を重ねています。北九州に染まり、若い頃より仕事の合間に門司の風師山、小倉の足立山、八幡の皿倉山、戸畑の金比羅山、若松の高塔山へ登って、その土地を眺めつつ、山々を守り神として崇拝しています。関門、洞海湾に架かる橋も、北九州人の誇り。渡り初めに参加したことは青春時代の貴重なページです。

(八幡西区・71歳男性)

### 海峡を眺めながら

私たち夫婦は、長崎県大村湾を望むある町の出身です。東京で働いていましたが、30年以上前に転勤で戻ったのが、関門海峡のそばの門司港でした。日本一穏やかな海の近くで生まれ育ったふたりは、潮流の速い海峡に魅せられ住み着きました。

戸ノ上、風師、矢筈山から、わが家と海峡を眺めるのが休日の楽しみのひとつです。42年前、新幹線の試運転担

当として、新関門トンネルを走り仕事したことを思い出しつつ、海を眺めています。

(門司区・70歳男性)

### 味の発見

結婚で北九州に来て27年、日常に小さな発見がたくさんありました。

おでんにちくわぶがない、しょうゆが甘い(刺身、すしはとくに)、小ネギがある、ゆずごしょうがおいしい、お水がおいしい、おいなりさんが三角、ラーメンはもちろんとんこつ、屋台にお酒がない、刺身にマグロが少ない、結婚式が賑やか、などなど。

最初はいろいろ驚いていましたが、いまではうんともすっかり「やわ」が好きになりました。

(小倉南区・53歳女性)

### 関門の昔

関門海峡の景色が見たくて、45年ぶりに門司港を訪れました。観光案内所で偶然、関門海峡の特集号をいただきました。



私は小学校時代を父の仕事の都合で門司区で過ごしましたが、父の仕事は関門橋を造ることでした。今回、夫と一緒に旅行で訪れました。対岸に下関、船が行き交う風景は時が経っても変わらず、本当に懐かしく思いました。

いまも『雲のうえ』のページをめくれば関門海峡の写真を眺めることができ、幸せです。

(東京都小金井市・55歳女性)

### 少年たちは、いま

26号の工業学校特集記事を見て、50年ほど前のことを思い出した。

昭和33年、小倉工業高校工業化学科を卒業。同級生の中には、佐賀、伊万里から下宿して通っている者、遠くは築上郡などから早起きして通学して来る者も多数いた。皆、それぞれにほぼ希望の企業に就職していった。

半世紀経って顔を合わせ

した。とてもいい街に住めて幸せだと思っと思っています。

(小倉南区・65歳女性)

### 青春の街・Part 2

大学時代の一時期、小倉北区に下宿していました。なにかと余裕がなく、北九州市のことをあまり知ることのな

いまま関西に転居しました。先般博多に出張した帰りに、ふと思いついて小倉で途中下車し、かつて生活した地域を歩いてみました。昔のバイト先がなくなっていたりするなど時の移ろいを感じずにはいられませんでしたが、当時の下宿から見えていた山や川がたいへん懐かしく感じました。

時間がべらぼうにあったあの頃、もつと市内を隈なく散策しておけばよかったです、この冊子を見て感じました。

(兵庫県宝塚市・39歳男性)

### 思い出はカレー味

『雲のうえ』は、私と父の楽しみでありました。以前、うどん特集の際、自宅近くのお店が載り、それを父と楽

る機会があり、懐かしかった。42名の同級生のうち、2名が工学博士になっていた。また、ベンツを乗り回す、面倒見のよい同級生もいる。母校も街も、いまでもおおいに輝き続けていることを、心からうれしく思っている。

(福岡県宗像市・77歳男性)



門司港の「やきとり きんちゃん」 2018年11月

しく拝読しました。

その父が昨年亡くなり、忙しさからなかなか目を通すことができませんでした。したが、ようやく落ち着き、27号のカレー特集を拝読。「六法焼 黄金本店」のカレー饅頭を見て、父が入院中に「カレーが食べたい」と言うのでこのカレー饅頭を買って持って行ったところ、「おいしい、おいしい」と言っ

ていたことを思い出しました。これからも食べるたび、父のことを懐かしく思い出しそうです。

### 耳を澄ませば

生まれてから10歳までを過ごした八幡市陣原。折尾駅の駅舎からランドセルを背負って、父の転勤で大阪へ。あれから50余年。心の中には、まだ

製鉄所の煤煙の臭い、洞海湾の墨色の海水、堀川のドブ臭、黒崎商店街の活気、西鉄電車の揺れといった感覚が残っています。「なんばしよっど？」という友人の声も聞こえてきそうです。

(埼玉県所沢市・65歳男性)

### わが青春の街

北九州市には20代の頃、10年間住んでいました。昭和37年、小倉南区北方の看護学校に入寮、厳しい看護の勉強、実習を経て国家試験に合格！小倉労災病院で看護師、八幡保健所で保健師として勤務しました。

結婚して福岡に住み、いまは後期高齢者となりましたが、青春時代を過ごした北九州の思い出は一生の宝物です。5市合併で北九州市誕生、若戸大橋開通、北方路面電車の終わりを

泣した日もあります。当時の職場仲間

で30年続けた「元気会」も、鬼籍の人が多くなり途絶えました。

(福岡市・75歳女性)

### 夢のあと

大分県出身。学生時代は近畿地方でひとり暮らし、青春を謳歌しましたが、夢の実現には至らずUターン。夢破れ傷心の私を救ってくれたのは、北九州市でした。

ここへ住んで約40年。就職、結婚、出産、退職を経て前期高齢者になりま

### 戸畑再訪

北九州八幡ロイヤルホテルに宿泊し、はじめて『雲のうえ』を拝見しました。本当は夏に旅行する予定でしたが、父が亡くなり、12月のクリスマスに主人と子ども、私の家族3人でスペースワールドと戸畑の商店街、市場、水環境館などを回って楽しみました。

亡父は外国航路の船員で戸畑にときどき入船しており、長崎から母、私、弟の3人がよく面会に行きました。当時は小学生だった私ですが、今回スペースワールドの観覧車から40年ぶりに赤い若戸大橋を見て感激しました。21号の特集では北九州で活躍する外国の方々を紹介されていましたが、あの頃、父と一緒に船員として働いていた外国人の方々はどうされているかなと思

いました。

### 夢の時代

『雲のうえ』を読んでいて思い出したのは、昭和30年代、私の故郷である福山市に大きな製鉄所ができた頃です。

少年の誰もが希望や夢、目標を持たず。そして学歴や親の職業に関係なく頑張れば成功する、そんな豊かな未来と可能性があった時代でした。

中学の修学旅行は九州。関門トンネルを抜けると北九州の夜空が広がっていました。工場から立ち上がる赤い天井、その光景に羨望と衝撃を受けたことを思い出します。これからは工業、鉄なんだと、国策と少年の夢がシンクロした時代でした。

(山口県下関市・68歳男性)

### 書かずにはいられない

生まれ育った北九州。小倉駅周辺、魚町商店街、いまでは私が浦島太郎かと思えるくらい、様子が変わってしまいました。

夏は足立山の小文字焼き、メモリアルクロス、妙見宮、魚町商店街の裏道にうどん屋の「きつねばやし」「たぬきばやし」、お好み焼きの「とん平」はいまもあるのかな？ 小倉城の公園にはジェットコースターもあった。オーシャンフェリーで、何度も徳島か

ら九州に里帰りをしました。皿倉山も懐かしい。

『雲のうえ』、楽しみに愛読していましたが。期限切れのアンケートですが、何か書かずにおられませんでした。悪しからず。

(徳島県神山町・69歳女性)

### 旅路にて

高齢になった母のかねてからの願いだった門司港への旅をしている最中に、新年度の人事発表を知りました。青天の霹靂ともいえる異動に、せっかくの旅なのに心が動揺し、眠ることができませんでした。

しかしそのとき、ホテルのチェックインカウンターで『雲のうえ』を見つけ「おいしいグルメのガイドブックかな？ おいしいものを食べて気を取り直して、旅を楽しむぞ」と思い直しました。単なるお店紹介の本ではないこと、そして人情味あふれる文章に、波立っていた気持ちを落ち着かせてもらいました。

残念すぎたのは、読んだのが帰る前

夜で、どのお店にも行けなかったことです。次回は、紹介されているようなお店の方たちとの触れ合いをしに、人事にも負けずに旅に來たいと思いましたが!! 踏ん張ります。

(神奈川県川崎市・40歳女性)

### 遠くで思う故郷の味

生まれは若松区、小6の3学期に父の転勤で千葉へ。その後、結婚して群馬に住んでおります。小さい頃を過ごした地での思い出はたくさんあり、愛着もひとしおです。

今回、遠く離れた都内で『雲のうえ』を見つけ、持ち帰ってきました。やきとり特集、昔からある店が多く、私が住んでいた頃にもあったのかなあと故郷に思いを馳せました。

もう30年以上北九州へは行けておりませんが、また必ず訪れて、変わった景色、変わらない景色をこの目で確かめてみたいと思っています。またどこかで『雲のうえ』を手に取ることができたらうれしいです。

(群馬県前橋市・53歳女性)

### 広島にて

今年の春から、就職で広島にやってきました。『雲のうえ』は、北九州を離れる際に年の離れたお友だちからプレゼントしてもらいました。

こちらでできた友人に見せると、「北九州って面白そうなところだね」と興味を持ってもらうことができました。地元を離れてしまいました。『雲のうえ』をツールに、広島の人たちに北九州の魅力を伝えることで、少しでも地元へ貢献することができればと思っています。

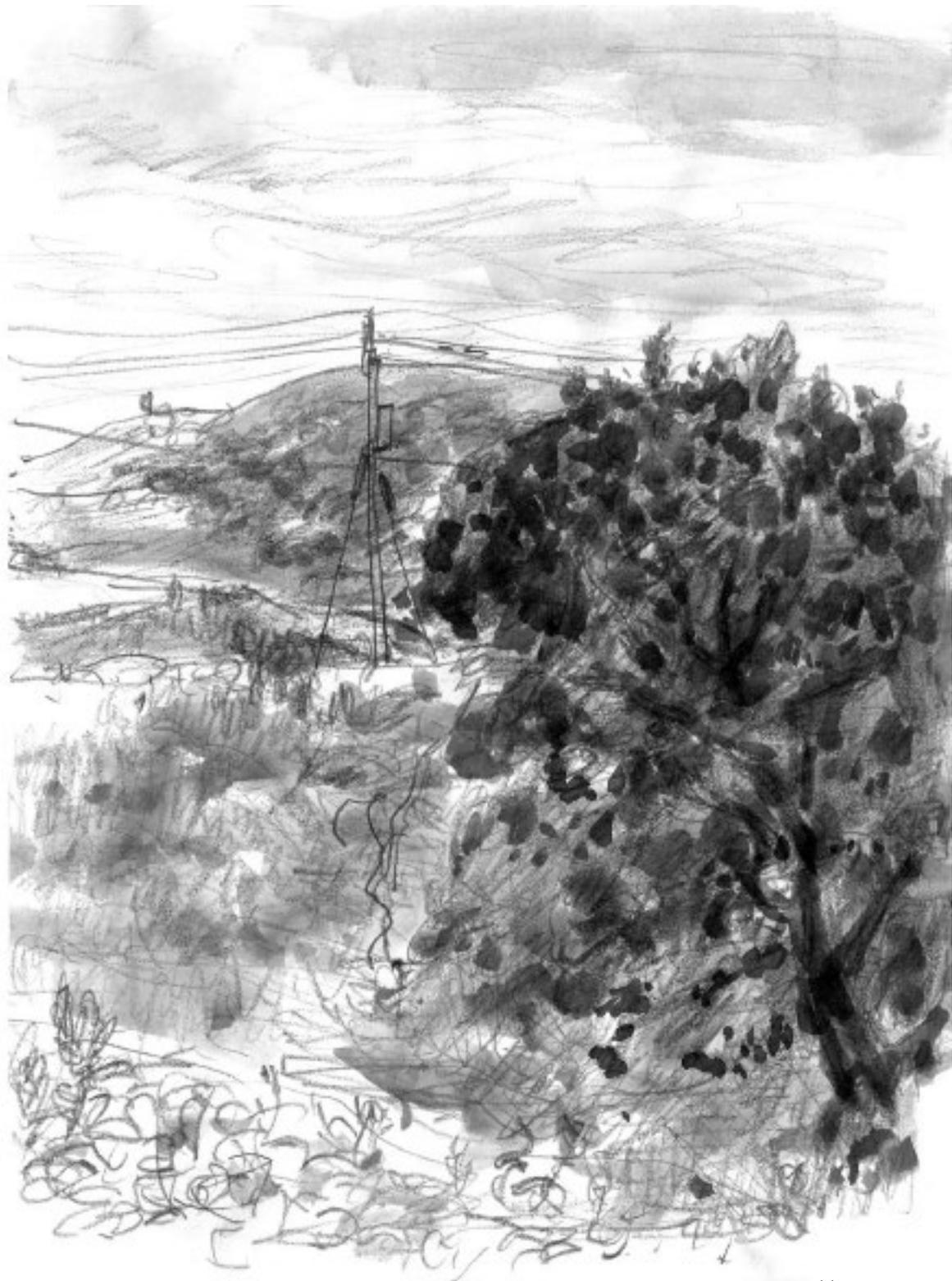
(広島市・22歳女性)

### 甘い記憶

北九州を離れて15年ぐらいになります。帰省すると母が『雲のうえ』を渡してくれるので、ずいぶん数が増えてきました。

24号の表紙は「あー、ぼたもちちゃん」。「資さんうどん」を思い出し、「シロヤ」のオムレットはお土産でもらうたびに姉ちゃんとケンカしながら食べた味。「井筒屋饅頭」は、井筒屋に行く





と作るところをじっと見て、家に帰っ

たらストープで少し焼いて食べたな  
と、子どもの頃を思い出しました。そ  
して20代前半、年上の気になる女性に  
「アンプティスター」のチーズケーキ  
を渡したな、と……。

甘い思い出と甘酸っぱい思い出に浸  
りながら、今度帰省したら奥さんと子  
どもたちと一緒に「もりしたフルーツ」  
に行こうと思いました。

(愛知県名古屋市・36歳男性)

## 第二の故郷

はじめて『雲のうえ』を手に取りま  
した。何気なくでしたが、自宅に戻っ  
て読むと懐かしさがあふれてきました。

というのも、幼稚園から中学生まで  
戸畑市に住んでいたからです。父の転  
勤で住むようになって、中学3年まで  
た東京に戻ったわけですが、八幡の起  
業祭や戸畑・小倉の祇園祭、若松市の  
脇田や小石の海岸での海水浴などが思  
い出されます。

夏は暑く、冬寒い北九州は、私の第  
二のふるさと。胸のうちに、いまでも残っ

ています。

(東京都豊島区・71歳男性)

## お金に代えられないものを

下関在住で、若い頃から小倉へは  
しょっちゅう出かけました。懐かしい  
感じがします。下関も寂れましたが、  
小倉の街もなんだか寂しくなりました。  
以前があまりにも活気があったからで  
しょう。

でも、人々はそこで生きております。  
何かを感じて生きております。お金に  
は代えられないものを、たくさん感じ  
て生きているのです。そこそが生活  
です。そこに、人間の温かさ、愛しさ  
があるとと思います。

地に足を着けて、しっかりと生きて  
いきましよう。そんなことを、『雲の  
うえ』読後に思いました。

(山口県下関市・65歳女性)

## 好きになりかけてる？

北九州に戻ってきて3年になります。  
出身地の小倉が好きになれないまま他  
県へ移り住み、よんどころない理由で

戻ってきたときは、北九州という言葉  
の響きさえ嫌でした。

他県にいたときでも、出身地を聞か  
れて「福岡です」と答えるとパツと場  
が明るくなりますが、「北九州です」  
と答えると一様に微妙な反応。承知の  
うえでしたが、やはり寂しく感じず  
はいられないものでした。

しかし『雲のうえ』については、お  
国自慢ながらに話し、バックナン  
バーまで見せている私。もしかして小  
倉、北九州のことを好きになりかけて  
るのかな？

(小倉北区・48歳女性)

## 旅の定番

羽田行きの飛行機に乗り、ブラン  
ケットと一緒に『雲のうえ』をくださ  
いとお願ひする。こうして手にするほ  
か、ホテルや役所で目にする、必ず  
もらって読んでいます。

知っている場所も店も、私が知らな  
い魅力を存分に取上げていて、「ま  
た行きたい!」「やっぱりそうよね」  
「心」など、ついつい北九州市民の目線



足立山妙見宮にある猪に腰かける和氣清麻呂の像 2006年1月

で見えています。

人がどんどん減少し、駅前のコレックも撤退、マンション等の箱ものがたくさんできてもね……。どうか、ゴーストタウンにならないように。

そのためにも、北九州の素敵なところをもっと伝えてほしいと思っています。『雲のうえ』のスタッフの皆さま、これからも頑張ってくださいね。そして、いつもありがとうございます♡

(小倉北区・44歳女性)

これからも

やあー、早いもので28号ですか。1号からずっと愛読していますよ。はじめて出したおたよりが掲載されたのが第3号でした。

当時47歳、あれからもう11年、子どもだった、少女だった娘たちもいまや成人して社会人。歳月を感じます。これからも50号、いや、いつそのこと100号を目指して気張ってください。チエストですよ。

(福岡県遠賀町・58歳男性)

15年？

いやいや、100年続けよう

『雲のうえ』にお願い！

次に読みたいのは、  
誰の、どんな物語？  
読者の皆さんから提案された  
企画案を、一挙大公開！



こんなところを見せてほしい

\*北九州市には、科学的、歴史的な見学施設も多いので、展示館などの特集をやってほしいです。  
(福岡県筑紫野市・女性)

\*羽田から北九州まで、飛行機で行けるのは魅力的ですね。わが家には小学生の子どもがいるので、ファミリーで遊べる施設の情報も読んでみたいです。  
(千葉県印西市・36歳女性)

\*「門司中央市場」特集をぜひお願いします。昔からずつとあるアーケードの商店街に、若いパワーのお店がオープンしてきており、大変に面白

い場所ではないかと！

(神奈川県川崎市・33歳女性)  
\*北九州の絶景ポイントを紹介していただけたらうれしいです。  
(八幡東区・66歳男性)

\*北九州の棚田の風景の特集を組んでいただけませんか。田舎の風景の写真を撮るのが大好きです。  
(門司区・74歳女性)

\*北九州市の屋台。福岡に負けないようになっしてほしいと願っています。  
(八幡西区・21歳女性)  
\*市内の古い建物をリノベ（ーション）して、個性的なカフェや、雑貨店

にしているところが最近、目につきます。門司港はもとより、若松南海岸通りもなかなか。そんな、ちょっと古いビルの中の新しいお店の特集なども組んでいただきたいなと思います。  
(八幡西区・55歳女性)

\*大の旅行好き。とくに、地元の方とお話するのが無上の喜びです。北九州の人々と接することのできる場所（飲食店や施設、体験等）があれば、ぜひ教えていただきたいです。  
(神奈川県相模原市・30歳女性)

\*「路地裏」の特集、お願いします。昔ながらの風情残る路地、家並みの間に走る道々、ひとつの小宇宙ともいえる空間です。北九州市には、ノスタル

ジツクな路地裏がたくさんあります。子どもの頃、友だちと遊んだ夢空間を振り返ってみたいものです。

(福岡県遠賀町・55歳男性)

\*北九州近辺の公園、キャンプ場の特集はいかがかな? と思います。緑豊かな北九州でのんびり過ごす時間を持ちたいです。

(福岡市・34歳女性)

### こんな人(たち)を知りたい

\*北九州フィルム・コミッションに関して、テレビで特集が組まれていますね。雑誌インタビューでも見かけました。最新の活動について、取り上げてもらいたいです。

(八幡西区・30歳男性)

\*北九州にゆかりの文学者も多いと思います。ぜひ特集をお願いします。森鷗外、松本清張、葉室麟、火野葦平、岩下俊作、村田喜代子、山崎ナオコ

ラ、平野啓一郎……。

(福岡市・63歳男性)

\*福岡県は「70歳現役」の実現を目指していますが、北九州市には70歳で現役の方が各界に数多くいると思われます。そのような方々取材して、紹介していただけないでしょうか。団塊の世代やあとに続く高齢者予備軍への励ましになり、後半の人生への応援歌になると思います。

(福岡県筑紫野市・65歳男性)

\*チャチャタウンやリバーウォークで、パフォーマンスや演奏、ダンスしている方の記事があればうれしいです。

(山口県下関市・56歳女性)

\*子育て世代にためになる遊び場、活動(サークル)、子どもの習いごと事情などのテーマを取り上げてほしい。子どもたちにこの街のよさを伝えたい。外に出ることもよいけれど、自分の街をまず好きになりたい。

(小倉北区・34歳女性)

が特集に取り上げられたら、とてもうれいす。

(滋賀県湖南市・50歳女性)

\*北九州の漫画文化、ぜひ取り上げて下さい。

(小倉北区・55歳女性)

\*北九州市にも由緒ある神社仏閣が多いので特集をしてはどうか。門司の和布刈神社、甲宗八幡、小倉北区の八坂神社、妙見宮、広寿山福聚寺、小倉南区の葛原八幡神社、蒲生八幡神社、八幡東区の仲宿八幡宮、龍潜寺、八幡西区の吉祥寺、岡田宮、若松の恵比須神社、戸明神社、戸畑の飛幡八幡宮等々。若い女性の間で、御朱印帳を持つての神社仏閣巡りがブームと聞きますし……。

(福岡県中間市・52歳男性)

\*北九州で生産される食材についての特集はどうでしょう。魚は魚市場などの現場、野菜は産地の生産者とともに朝市など。意外と知られていないもの

\*進学や就職などで一度は市外へ出たものの、戻ってきた人たちの話を聞いてみたい。私の主人もそのひとり。東京の大学へ進学したのち北九州へ戻り、家業を継ぎました。どうして戻ろうと思ったのか、どんな街にしたいのか、いろんな人に聞いてみたいです。

(門司区・37歳女性)

### こんなテーマを取り上げて

\*北九州に残る銭湯を探してほしいです。別府までは行けないから、近場であるのなら行ってみたいので、ぜひよろしくお願いします。

(小倉南区・32歳女性)

\*北九州のさまざまな工房や、街で作られている手作り品の特集をしてほしいと思っています。

(兵庫県芦屋市・52歳女性)

\*私の好きな日本酒。北九州市のお酒

さらには、73年にセンバツW出場の

小倉南と小倉商、北九州と北九州市立北筑と八幡南などの「定期戦文化」があります。九州で2番目に古い大谷球場、国鉄がプロ球団となり初キャンプの地となった門司球場、西鉄ライオンズの準フランチャイズとなった小倉球場を巡るのもよし。その際はぜひ、門司出身の詩人・平出隆さんの野球詩を添えてください。

(八幡東区・54歳男性)

\*山口県側と北九州側の人の行き来について、知りたいです。海峡を挟んでお互いにどう感じているのか、とても興味があります。

(千葉県八千代市・46歳男性)

ドキドキしますね!

\*工場地域というイメージが昔は強かったですが、いまは高齢化、過疎化の進んだ街というのが実感です。元気が明るい街づくりを目指し、各区にあ

る埋もれた店、頑張っている人を紹介してほしい。そういう方々にエールを送り、ともに頑張っていきたいと思います。レトロだけではだめです。私はそう思いますが……。

(門司区・76歳男性)

\*教育をテーマにした特集。北欧発祥でいま全国的に注目されている「森のようちえん」、自然あふれる北九州にもいくつかあるようです。いまは教育内容で移住も珍しくない時代ですので、北九州に若い世代を集められる特集を期待しています。

(小倉南区・37歳女性)

\*娘の就活中に感じましたが、市内が本社の有名企業は大卒者の採用ばかりで、短大卒や専門学校卒の採用が少ないようです。そこで、有名企業以外にも北九州本社の会社を取り上げてご紹介いただける、県外への人の流出、ひいては人口減少に歯止めをかけられると思います。

(門司区・44歳女性)

過去にも何度かウェブ閲覧(電子化)の話は出たのですが、過去の著作権者との調整が困難であること、作成にかかる予算上の制約、そしてなにより紙の冊子の質感、紙とインクの匂い、手触りを大切にしたいという思いから、電子化には至っておりません。ご理解賜りますようお願い申し上げます。(北九州市産業経済局 MICE推進課)

### 北九州市にもお願い!

\*駅前のコレットが閉店し、ハレの日の特別な買い物をしたければ福岡へ、というのが北九州市の現状のような気がします。そういう状況の中、大都市や福岡との差異化を図れるのは、小さな個人店や場所なのかなと思います。そういうお店もあるにはありますが、後継の方はいらっしやるのかと心配しています。市で後継者育成の支援などしてほしいです。

(門司区・40歳女性)

\*北九州の巨木の紹介をお願いします。(小倉北区・70歳男性)

### 巨木!?

#### 編集委員にお願い

\*牧野伊三夫さんのイラストがすばらしく、毎回見入ってしまいます。ぜひ牧野伊三夫さんの生い立ちなど特集してほしいと思います。

(小倉北区・51歳男性)

ありがとうございます。『雲のうえ』ではできませんが、自分の著書では生い立ちにも触れております。絵を学び始めたのは、小倉北区の徳香幼稚園のお絵描き教室からです。(牧野伊三夫)

\*全号全ページ愛読しています。とくに写真に感心しています。しかし、悲しいかな、老眼鏡を使用しても説明文

が読めず、悪戦苦闘しています。もう少し文字が大きくなるらないかと。(八幡西区・72歳男性)

お伝えしたいことがたくさんありすぎて、ついつい小さくなりがちです……。このあたり、精査しながら、なるべく大きくするよう努めます。(有山達也)

\*少しは「弾ける若さ!」を感じさせる部分があってもいいかも。(埼玉県川口市・59歳男性)

「難題! (でも、頑張ります!)」

\*バックナンバー、ウェブで閲覧できるようにしてほしいです。紙媒体のよさはとてもあるのですが、ずっと取っておくと「どこにしまったやら?」になってしまいます。手に入らなかったものもあるので、お願いします。(熊本市・46歳女性)

(熊本市・46歳女性)

\*北九州マラソンに3度出場している市民ランナーです。河内貯水池の周回コースが走りやすく、近くに温泉もあって、すばらしい場所だと思います。道を整備して、東京の皇居コースに負けないコースを作ってほしいと思います。(小倉南区・45歳男性)

(小倉南区・45歳男性)

\*関門ひとくくりとして、下関と北九州市お互いを発展させ、住みよい街にしてほしいです。(山口県下関市・46歳男性)

(山口県下関市・46歳男性)

\*できれば「北九州市」という名前を変えたほうがいいと思います。自分の年のせいでもあるのでしようが、こうしたククリ型のネーミングは好きではありません。北とか南とか西とか東とか地名に入れるなんて……:スミマセン、言いたいことを言いました。(神奈川県横浜市・62歳男性)

(神奈川県横浜市・62歳男性)

\*北九州市は、種々のことに挑

戦しているとは思っていましたが、ここまでやっているとは正直、思っていませんでした。北九州イメージアップのためにも、『雲のうえ』、今後もよろしくお願いします。(小倉北区・69歳男性)

(小倉北区・69歳男性)

たくさんのおたより、ありがとうございます! ございました!



※この号におたよりを掲載させていただいた方には、山口県下関市の下関大丸で展開中のアンテナショップ「雲のうえ丸」オリジナルのお菓子詰め合わせ「北九州お菓子案内」をお送りします。

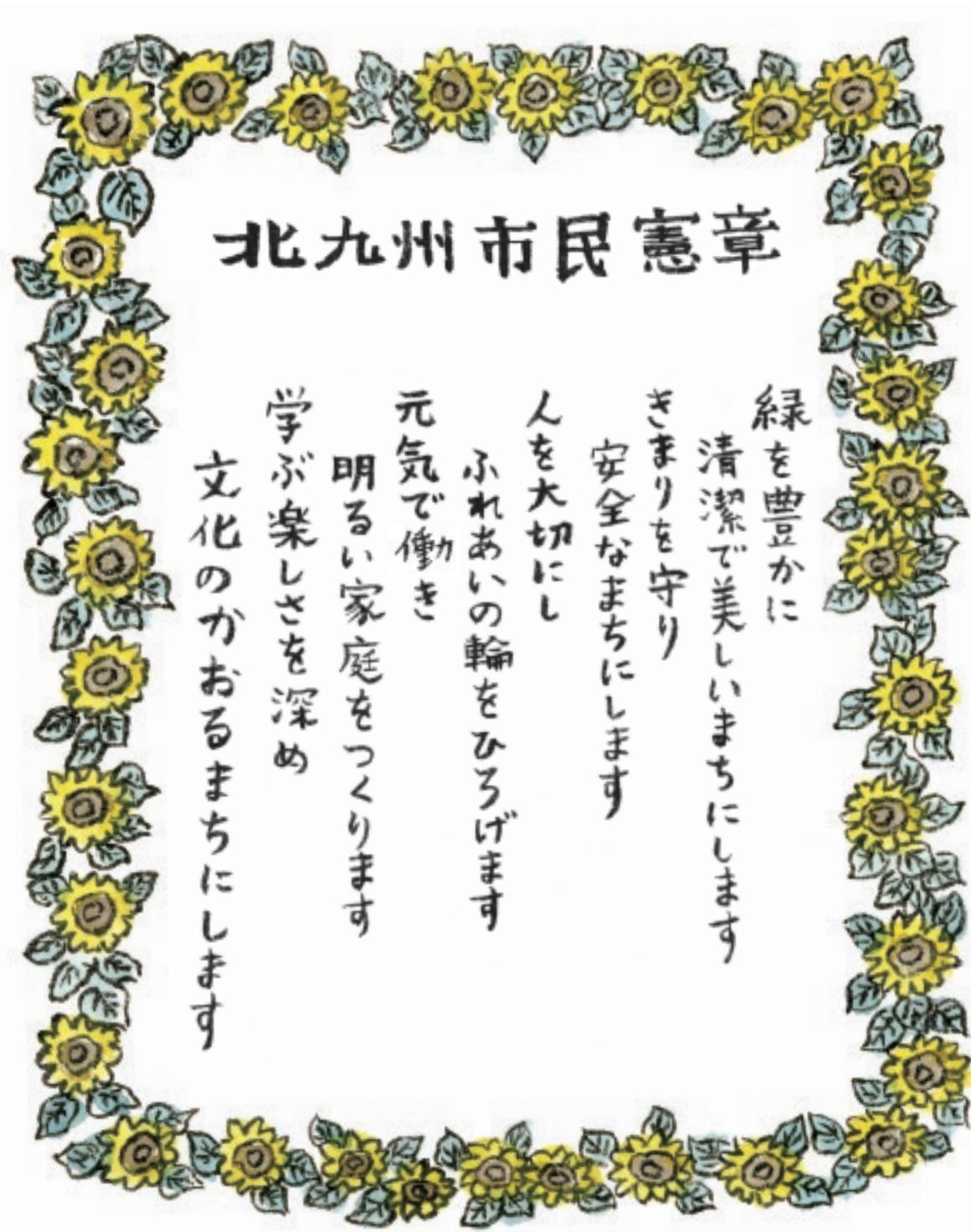
発送は2021年5~6月末を予定しております。住所変更などで謝礼が届かなかった場合、お手数ですが係までお知らせください。

☎ 802-0001 北九州市小倉北区浅野3丁目8-1  
北九州市産業経済局 MICE 推進課内  
北九州市にぎわいづくり懇話会

☎ 093-551-8152

san-mice@city.kitakyushu.lg.jp





特別付録ポスター

※切り取ってお使いください



## What's NEJI CHOCO?



北九州は近代日本の発展を支えた製鉄業で成長してきた街です。

2015年には官営八幡製鉄所関連の施設が世界文化遺産に登録。

これを受けて、私たちは北九州ならではのお土産をつくりたいとの思いから

「鉄」をイメージできる商品開発に取り組みました。

着目したのは、それまで不可能だった緻密な立体を再現できる3Dプリンタの可能性です。

「3Dプリンタで型をつかったチョコレート」というコンセプトのもと、

2016年に実際に回せるネジ型のチョコレート「ネジチョコ」が完成。

その後、オートメーション化による量産体制も整え、

北九州を象徴する鉄からネジのチョコレートそれが〈NEJI CHOCO〉です。



# CHOCOLATE CREATING THE FUTURE.

NEJI  
CHOCO  
LABORATORY

ネジチョコ ラボラトリー

〒800-0227 北九州市小倉南区津田新町3-15-5

TEL 093-474-9500

<http://nejichocolab.jp/>

小倉城を舞台に謎を解くリアル謎解きゲーム

小倉城 × リアル謎解きゲーム



# 武蔵

双剣と失われし五輪書

2020.7.1(水) - 2021.7.31(土)



謎解きキット価格：2,000円(税込) ※キット+小倉城&小倉城庭園2施設共通入場券付き

販売場所：しろテラス (小倉城大手門広場内)

所要時間：約3時間

プレイ可能時間：9:00 ~ 18:00

※プレイ可能時間は小倉城・小倉城庭園の営業時間に準じます。

詳細はこちら



小倉城 謎解き 検索

※状況によって、イベントを休止する可能性もございます。※イベント内容、期間については変更となる場合がございます。

**CAUTION: このイベントはあなたが実際に小倉城やその周辺を歩き謎を解く体感型のゲームイベントです**

【主催】北九州まちづくりマネジメントチーム共同事業体 【企画・製作】株式会社 フラップゼロα



※どなたがこの2人(2匹?)に、かわいい名前をつけてください。(編集委員)

このキャラクターの名前を募集します。縦読みはがきをご利用ください。名前を採用させていただいた2名様に「雲のうえ丸」特製Tシャツをプレゼントします(複数名の場合は抽選になります)。



輝く人の、



# 北九州から那覇へ

## 期間限定運航

〈運航スケジュール〉

4/28(水)~5/10(月) 7/21(水)~8/5(木)  
8/17(火)~8/30(月) 9/17(金)~9/27(月)

便名	北九州発	那覇着	便名	那覇発	北九州着
SFJ97	10:45	12:35	SFJ96	13:30	15:15

〈運航スケジュール〉

8/6(金)~8/16(月)

1日2往復運航!

便名	北九州発	那覇着	便名	那覇発	北九州着
SFJ97	09:15	11:05	SFJ96	11:50	13:35
SFJ99	14:55	16:45	SFJ98	17:30	19:15

■最新の運航情報は当社ホームページをご覧ください。■発着時刻は、予告なしに変更する場合がございます。■また、天候やその他やむを得ない理由により運航・欠航する場合がございますので、ご了承ください。

# 北九州《7,000円~》那覇

〔沖縄〕

そら旅75 搭乗予定日の75日前までにご予約・ご購入いただける運賃です。※販売座席数には制限がございます。※便によっては設定がない場合がございます。※上記運賃額は2021年1月28日現在の最安運賃額であり、変更する場合がございます。※別途「国内線旅客施設使用料」が必要になります。※詳しくはスターフライヤーホームページをご覧ください。

航空券に関する  
お問い合わせ

国内線予約・  
案内センター

0570-07-3200

7:00~21:00 年中無休  
※当面の間、営業時間を8:00~19:00(年中無休)に変更中。  
PHS/IP電話からは 北九州:093-512-7320 東京・大阪:050-3822-1489 詳しくは [スターフライヤー](#) 検索

北九州 ———— 那覇線限定



北九州空港駐車場 2日分 <sup>48時間</sup> 無料 キャンペーン

北九州空港駐車場を利用し、那覇線にご搭乗の方を対象に駐車場2日分(48時間)無料キャンペーンを実施中



お問い合わせ

北九州空港利用促進連絡会

〒803-8501 北九州市小倉北区内1-1  
北九州市港湾空港局 空港企画課内

Tel.093-582-2308 詳しくは [北九州空港](#) 検索

お知らせ  
32号まで編集委員を務めていた編集者・ライターのおつるやもこ氏が、去る2020年6月に逝去しました。2008年発行の8号から「雲のうえ」に参加し、以降、すべての号の編集と多くの記事の執筆を手がけました。たくさんの場所には足を運び、さまざまな方々とお話を伺いながら、つねに北九州の街を愛情を持って見つめていました。記事を読んでくださった皆さま、取材に応じてくださった皆さま、製作・発行にご協力いただいた皆さまに、あらためてお礼を申し上げます。彼女とともに25冊の「雲のうえ」を送り出したことを、私たちは心からありがたく思っております。

「雲のうえ」編集委員  
牧野伊三夫  
有山達也  
大谷道子  
北九州市にぎわいづくり懇話会

### \* アンケート

『雲のうえ』33号をお読みいただきありがとうございます。ご感想、今後取り上げてほしいテーマなどのご要望を、縦じ込みがきでお寄せください。抽選で22名の方に、以下のプレゼントをお贈りいたします。2021年8月15日消印有効、当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます。\*応募はおひとりさま1号につき1通に限らせていただきます。複数応募は無効となりますのでご注意ください。

A: STARFLYER 1/150モデルプレーン  
(株式会社スターフライヤー) ⇒ 2名様

B: 「雲のうえ丸」オリジナルグッズセット  
(トートバッグ・北九州お菓子案内・マスクングテープ)  
⇒ 15名様

C: 北九州市ふるさとかるた  
(北九州市にぎわいづくり懇話会)  
⇒ 5名様



青雲/白雲  
編集委員より感謝を込めて  
\* 上京する多くの人がそらでうであるように、高校を卒業して故郷を離れた僕も、出身地と言いつつながら自分の生まれ育った北九州という街をよく知りなりました。しかも、正直、評判はあまりよろしくありません。本当はいい街なんだと東京の友人を案内しようとしたが、当然ながら酒場もわからず、関門海峡を見ながら門司港へ行くのに、下関行きの列車に乗ってしまう始末であった。それで、たびたび帰郷しようと思った時に、偶然「雲のうえ」が創刊した。僕は、よし、と思った。それから15年、この小さな本を通じてこの街について語れるようになったことがなによりうれしい。市役所で創刊に尽力し、「昨年亡くなった中原蒼」さんにもお礼を伝えたい。(牧野伊三夫)

\* 100回以上訪れている小倉の街は、もう旅先の街ではなくなりました。いまでは深く酔っても迷わずホテルまで帰れます。15年前、北九州を外からの目線で掘り起こす市をから始まったこの冊子ですが、目線は外からなのか内からなのか、いやや境界は曖昧です。皆さんからいただいた思い出と同じように、僕もこの街にたくさん思い出があります。編集委員のつるやもこのこともいろいろある「もも」したフルーツ(へよ)と一緒にいただきました。ソフトクリームを食べながら、そこで働くスタッフとのお話がいまもいまだに思い出されています。つるやもこの初期のメールの文末は「また、えつちゃん(有山達也)と一緒に食べていました。」

\* 10年ぶりに戻ってきた「雲のうえ」初のリモート制作号、楽しんでいただけましたか? 約8000枚のおたよりが東京と北九州の間を重なり、慣れないリモート会議を重ねる中、つねに私たちのよりどころとなったのは、本誌に寄せたいだいな愛あるおたより、その肉筆の温もりでした。編集委員の代わりにもり内を駆け回ってくださった市役所のSさんにも感謝を、いまは文字どおり雲のうえの住人となった編集委員・つるやもこも、右往左往する私たちをニマリしながら見守っていたことでしょうか。離れていても、心はひとつ。辛抱の時期が過ぎれば、らく続きますが、最後に、この街で関わったすべてのの方に贈ります。「今日もご安全に」(大谷道子)



次号予告  
次は  
どこの空へ?

最新の情報は、  
北九州市にぎわいづくり懇話会情報サイト  
<https://www.lets-city.jp/>で  
お知らせします。

「雲のうえ」編集委員会  
「牧野伊三夫」  
有山達也  
大谷道子  
協力  
北九州市にぎわいづくり懇話会  
〒802-1000  
北九州市小倉北区浅野3丁目8-11  
☎093-155-1181  
(北九州産業経済局MICE推進課)  
制作統括・印刷  
株式会社ゼンリンプリンテックス  
北九州市のみなさま

### \* バックナンバー

- 『雲のうえ』28  
特集：雲のうえ旅行社
- 『雲のうえ』29  
特集：北九州、市民の水。
- 『雲のうえ』30  
特集：北九州やきとり豚バラ日記。
- 『雲のうえ』31  
特集：北九州スポーツ探訪



◎ 『雲のうえ』を送付希望の方は、お名前、ご住所、連絡先の電話番号、ご希望の号を明記のうえ、1~2冊/250円分、3~4冊/390円分の切手を同封してお送りください。  
◎ 送付は1名様1号あたり1冊、予定数に達した場合は終了させていただきます。北九州市にぎわいづくり懇話会のウェブサイトでも既刊の号の在庫を確認できますので、ご覧のうえお申し込みください。

☎ 802-0001 北九州市小倉北区浅野3丁目8-1  
☎ 093-551-8152  
北九州産業経済局 MICE 推進課  
『雲のうえ』送付係

©北九州市 2021 本誌記事・写真・イラストレーションの無断転載を禁じます。

北九州市にぎわいづくり懇話会情報サイト  
<https://www.lets-city.jp/>

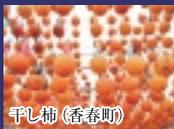
# しとお? しらんの!?



水巻のでかにんにく  
万能味噌 (水巻町)



ふるの牛 (鞍手町)



スイートコーン (築上町)



## 北九州 都市圏域

Kitakyushu  
InterCity  
Linkage



HPを見てね!!

